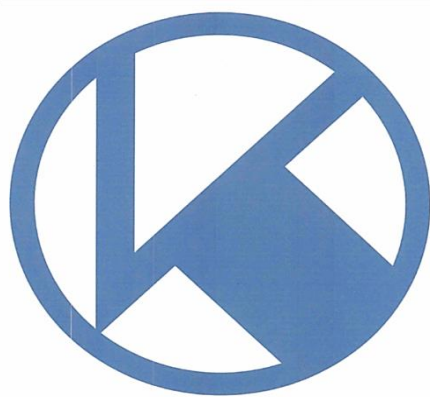


2021年度  
郡山健康科学専門学校  
講義概要



こども未来学科  
2年生

学校法人こおりやま東都学園

# こども未来学科 2020・2021年度生 履修一覧

| 1年             |                     |          |
|----------------|---------------------|----------|
| 教育内容           | 科目名                 | 国家試験該当科目 |
| 外国語、体育以外の科目    | 憲法                  |          |
|                | 情報処理                |          |
|                | ポケット・ゼミ             |          |
| 外国語            | 英語                  |          |
| 体育             | 健康・スポーツ理論           |          |
|                | 健康・スポーツ実技           |          |
| 保育の本質・目的に関する科目 | 保育原理                | ●        |
|                | 教育原理                | ●        |
|                | 子ども家庭福祉論            | ●        |
|                | 社会福祉                | ●        |
|                | 社会的養護 I             | ●        |
| 保育の対象の理解に関する科目 | 保育の心理学              | ●        |
|                | 子どもの理解と援助           |          |
|                | 子どもの保健              | ●        |
| 保育の内容・方法に関する科目 | 保育の計画と評価            |          |
|                | 保育内容総論 I            |          |
|                | 健康指導法               |          |
|                | 人間関係指導法             |          |
|                | 環境指導法               |          |
|                | 子どもの生活と遊び(表現と運動) I  |          |
|                | 子どもの生活と遊び(音楽とリズム) I | ●        |
|                | 子どもの生活と遊び(感性と創造)    | ●        |
|                | 子どもの生活と遊び(言葉と児童文化財) | ●        |
|                | 乳児保育 I              |          |
| 乳児保育 II        |                     |          |
| 保育実習           | 保育実習指導 I            | ●        |

| 2年                    |                     |          |
|-----------------------|---------------------|----------|
| 教育内容                  | 科目名                 | 国家試験該当科目 |
| 保育の本質・目的に関する科目        | 子ども家庭支援論            |          |
|                       | 保育者論                |          |
|                       | 医療保育総論              |          |
|                       | 多職種連携総論             |          |
| 保育の対象の理解に関する科目        | 子ども家庭支援の心理学         |          |
|                       | 子どもの食と栄養            | ●        |
|                       | 発達障害児の理解と対応         |          |
| 保育の内容・方法に関する科目        | 言葉指導法               |          |
|                       | 表現指導法               |          |
|                       | 子どもの健康と安全           |          |
|                       | 障害児保育               |          |
|                       | 社会的養護 II            | ●        |
|                       | 子育て支援               |          |
|                       | 居住環境学               |          |
|                       | 感覚統合入門              |          |
|                       | 在宅保育                |          |
|                       | 子どもの生活と遊び(表現と運動) II |          |
| 子どもの生活と遊び(音楽とリズム) II  | ●                   |          |
| 子どもの生活と遊び(音楽とリズム) III |                     |          |
| 入門臨床美術                |                     |          |
| 保育実習                  | 保育実習指導 II           |          |
|                       | 保育実習 II             |          |
|                       | 保育実習指導 III          |          |
|                       | 保育実習 III            |          |
| 総合演習                  | 保育実践演習              |          |

| 【科目名】   |   | 【担当教員】                                 |                        |        | 【科目責任者】                            |
|---|---|--|------------------------|--------|------------------------------------|
| 子ども家庭支援論<br>※実務経験のある教員の授業科目   |   | 小坂 徹                                   |                        |        | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>として<br>11年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】                                      | 【開講時期】                                 | 【回数(時間)】               | 【授業形態】 | 【単位】                               |
| こども未来学科   | 2   | 前期                                     | 15(30)                 | 講義     | 2                                  |
| 【授業の概要・目的】  |   |  |                        |        |                                    |
| 現在の日本社会における子育て家庭への支援の意義と必要性について理解し、保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。また、その体制と展開、現状と課題についての理解を深める。   |   |  |                        |        |                                    |
| 【学習目標(到達目標)】  |   |  |                        |        | 【受講して得られる力】                        |
| ①子ども家庭支援の意義と役割について理解する。<br>②保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。<br>③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。<br>④多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。<br>⑤子ども家庭福祉に関する現状と課題について理解する。 |   |  |                        |        | 考え抜く力<br>生活援助技術<br>相談支援技術          |
| 【履修上の注意】  |   | 毎回の授業の予習と課題の提出                         |                        |        |                                    |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                              | 授業の内容・目標(使用教材等)                        |                        |        | 授業方法                               |
| 1   | オリエンテーション                                 | この科目を学ぶ必要性和進め方、履修上の注意点について理解する。        |                        |        | 個人                                 |
| 2   | 子ども家庭支援の意義と必要性                            | 子ども・家庭をめぐる環境変化と現状、支援の意義について理解する。       |                        |        | 個人                                 |
| 3   | 子ども家庭支援の目的と機能                             | 子ども家庭支援の目的と範囲、機能と専門性について学ぶ。            |                        |        | 個人                                 |
| 4   | 保育の専門性を生かした子ども家庭支援                        | 保育所・認定こども園の特性、保育の専門性を生かした家庭支援を理解する。    |                        |        | 個人                                 |
| 5   | 子どもの育ちの喜びの共有                              | 保護者と協働するための子どもの育ちの喜びの共有について理解する。       |                        |        | 個人                                 |
| 6   | 子育てを自ら実践する力の向上                            | 保護者の「子育てを実践する力」を支持するための方法について学ぶ。       |                        |        | 個人                                 |
| 7   | 保育士に求められる基本的態度                            | 家庭支援において保育士に求められる基本的態度について理解する。        |                        |        | 個人                                 |
| 8   | 家庭の状況に応じた支援                               | 保護者の就労状況や子ども、保護者自身の問題等状況に応じた支援について学ぶ。  |                        |        | 個人                                 |
| 9   | 子育て家庭に対する支援の体制Ⅰ                           | 子育て家庭の福祉を図るための社会資源について学ぶ。<br>(オンライン授業) |                        |        | 個人                                 |
| 10  | 子育て家庭に対する支援の体制Ⅱ                           | 子育て支援施策・次世代育成支援施策について学ぶ。               |                        |        | 個人                                 |
| 11  | 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ                        | 子ども家庭支援の内容と対象について理解する。                 |                        |        | 個人                                 |
| 12  | 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ                        | 保育所等を利用する子育て家庭への支援について学ぶ。              |                        |        | 個人                                 |
| 13  | 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ                        | 地域の子育て家庭への支援について学ぶ。                    |                        |        | 個人                                 |
| 14  | 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ                        | 要保護児童およびその家庭に対する支援について学ぶ。              |                        |        | 個人                                 |
| 15  | 子ども家庭支援に関する現状と課題                          | 制度・行政上、相談体制、施設、社会の意識等について理解する。         |                        |        | 個人                                 |
| 期末試験  |   | 評価方法                                   | 課題の達成度 70%<br>受講態度 10% | 小テスト   | 20%                                |
| 【教科書】   | 最新保育士養成講座第10巻「子ども家庭支援」(全社協)               |  |                        |        |                                    |
| 【参考書】   | 幼稚園養育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領(チャイルド社) |  |                        |        |                                    |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習課題の達成   |   |  |                        |        |                                    |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                                      | 【質問方法】                                 | 教員室にて                  |        |                                    |

| 【科目名】  |                       | 【担当教員】   |                        |   | 【科目責任者】                            |
|--|-----------------------|--|------------------------|---|------------------------------------|
| 保育者論<br>※実務経験のある教員の授業科目  |                       | 小坂 徹   |                        |   | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>として<br>11年勤務 |
| 【対象学科】   | 【学年】                  | 【開講時期】   | 【回数(時間)】               | 【授業形態】  | 【単位】                               |
| こども未来学科  | 2                     | 後期   | 15(30)                 | 講義  | 2                                  |
| 【授業の概要・目的】   |                       |  |                        |   |                                    |
| 保育者の役割や保育士の責務を理解する。さらに、専門職として、子どもを見る柔軟な視点を養い、生涯成長する保育者であると認識することを目的として、その向上のための理解を深める。           |                       |  |                        |   |                                    |
| 【学習目標(到達目標)】   |                       |  |                        | 【受講して得られる力】                                   |                                    |
| ①保育者の役割と倫理について理解する。<br>②保育士の制度的な位置づけを理解する。<br>③保育士の専門性について考察し、理解する。<br>④保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 |                       |  |                        | 考え抜く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術<br>相談支援技術 |                                    |
| 【履修上の注意】   |                       | 毎回の授業の予習と課題の事前提出を忘れないように気をつけること。               |                        |   |                                    |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)          | 授業の内容・目標(使用教材等)                                |                        |   | 授業方法                               |
| 1  | オリエンテーション<br>保育者の役割再考 | 講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。             |                        |   | 個人                                 |
| 2  | 保育者の仕事と役割             | 保育者の仕事について理解し、それぞれの場での仕事と役割について理解する。           |                        |   | 個人                                 |
| 3  | 保育者の制度的位置づけ           | 各保育者の位置づけと保育者の倫理について理解する。                      |                        |   | 個人                                 |
| 4  | 子どもの権利擁護と倫理的ジレンマ      | 保育場面における子どもの権利擁護とは何かを事例を通して考える。                |                        |   | 個人・グループ                            |
| 5  | 保育者になるための学び           | 保育を実践する者への意識転換と保育者になるための道筋について理解する。            |                        |   | 個人                                 |
| 6  | 保育者に求められる資質           | 保育者に求められる資質、期待される役割について理解し、学生時代に学ぶべきことを考える。    |                        |   | 個人                                 |
| 7  | 学びあう専門家としての連携と協働Ⅰ     | 職員間の連携・協働について考え、理解を深める。                        |                        |   | 個人                                 |
| 8  | 学びあう専門家としての連携と協働Ⅱ     | 専門職間および専門機関、関係機関との連携・協働について理解する。               |                        |   | 個人                                 |
| 9  | 保育者の資質向上とキャリア         | 資質向上のため研修、キャリア形成、チームとしての保育とリーダーシップについて理解する。    |                        |   | 個人                                 |
| 10   | 現代社会の変化と保育者の仕事や課題     | 増加し多様化する保育者の課題について学び、理解する。                     |                        |   | 個人                                 |
| 11   | これからの保育者に期待されるもの      | おおよそ5項目について取り上げて具体的に理解する。                      |                        |   | 個人                                 |
| 12   | 日本の保育者の歩み             | 日本近代保育の幕開けから戦後までを概観し、これからの保育を考える。              |                        |   | 個人                                 |
| 13   | 資料に見る保育者の姿            | 社会の変化と保育者の役割、働く保育者の実態から学び、その専門性とライフコースについて考える。 |                        |   | 個人                                 |
| 14   | 保育者の育ちⅠ               | テキストのコラムからグループ討議、意見交換を行い、理解を深める。               |                        |   | グループ                               |
| 15   | 保育者の育ちⅡ               | テキストのコラムからグループ討議、意見交換お行い、理解を深める。               |                        |   | グループ                               |
| 期末試験   | 原則無し                  | 評価方法   | 課題の達成度 60%<br>受講態度 10% | 授業への貢献 10%<br>小テスト 20%                        |                                    |
| 【教科書】  | 今に生きる保育者論第4版(みらい)     |  |                        |   |                                    |
| 【参考書】  |                       |  |                        |   |                                    |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習と課題の達成   |                       |  |                        |   |                                    |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員                  | 【質問方法】   | 教員室にて                  |   |                                    |

| 【科目名】   |                                 | 【担当教員】                                |                              |                           | 【科目責任者】                            |
|---|---------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------------------------|
| 子ども家庭支援の心理学<br>※実務経験のある教員の授業科目  |                                 | 小坂 徹                                  |                              |                           | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>として<br>11年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】                            | 【開講時期】                                | 【回数(時間)】                     | 【授業形態】                    | 【単位】                               |
| こども未来学科   | 2                               | 前期                                    | 15(30)                       | 講義                        | 2                                  |
| 【授業の概要・目的】  |                                 |                                       |                              |                           |                                    |
| 乳幼児期だけでなく生涯発達について概観し、子どもと関わる大人の発達と課題について学ぶ。さらにそれぞれが課題を抱えて構成されている家庭・家族の理解を深め、現状と課題について学ぶ。さらに、こうした中での子どもの精神保健とその課題についても学び、理解を深める。 |                                 |                                       |                              |                           |                                    |
| 【学習目標(到達目標)】  |                                 |                                       |                              | 【受講して得られる力】               |                                    |
| ①生涯発達について学び、関わる保育者自身や保護者の理解を深める。<br>②家族・家庭の理解を深める。<br>③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。<br>④子どもの精神保健とその課題について理解する。                 |                                 |                                       |                              | 考え抜く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術 |                                    |
| 【履修上の注意】  |                                 | 毎回の授業の予習と課題の提出を怠らないこと。                |                              |                           |                                    |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                    | 授業の内容・目標(使用教材等)                       |                              |                           | 授業方法                               |
| 1   | オリエンテーション                       | シラバスとテキストを概観し、講義内容、進め方、評価方法について理解する。  |                              |                           | 個人                                 |
| 2   | 生涯発達Ⅰ 乳幼児期から学童期前期               | 大きく乳幼児期、幼児期、学童期前期について学び、理解する。         |                              |                           | 個人                                 |
| 3   | 生涯発達Ⅱ 学童期後期から青年期                | 大きく学童期後期と青年期に分けて学び、理解する。              |                              |                           | 個人                                 |
| 4   | 生涯発達Ⅲ 成人期・老年期                   | 大きく成人期と老年期に分けて学び、理解する。                |                              |                           | 個人                                 |
| 5   | 生涯発達Ⅳ 保育者としての生涯の発達              | 保育者としての発達の特徴について学び、発達課題とその達成について理解する。 |                              |                           | 個人                                 |
| 6   | 家族・家庭の理解 家族家庭の意義と機能             | 家族・家庭の定義、歴史、発達について学び、理解を深める。          |                              |                           | 個人                                 |
| 7   | 家族・家庭の理解Ⅰ 親子関係・家族関係の理解          | 親子関係・家族関係と子どもの発達への影響と対応について学ぶ。        |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 8   | 家族・家庭の理解Ⅱ 子育ての経験と親としての育ち        | 親の発達について学び、その発達を支えるための保育者について考える。     |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 9   | 子育て家庭に関する現状と課題Ⅰ 子育てを取り巻く社会的状況   | 周産期と子育て期の社会的状況について学び、理解を深める。          |                              |                           | 個人                                 |
| 10  | 子育て家庭に関する現状と課題Ⅱ ライフコースと仕事・子育て   | ライフコースの定義、変遷、仕事と子育ての位置づけについて学ぶ。       |                              |                           | 個人                                 |
| 11  | 子育て家庭に関する現状と課題Ⅲ 多様な家庭とその理解      | 現代の家庭の変容と多様な家庭の形態について学ぶ。              |                              |                           | 個人                                 |
| 12  | 子育て家庭に関する現状と課題Ⅳ 特別な配慮を要する家庭     | 特別な配慮の必要性を理解し、家庭・家族への支援を学ぶ。           |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 13  | 子どもの精神保健とその課題Ⅰ 子どもの生活・生育環境とその影響 | 家庭、地域、社会状況の変化とその影響について学び、理解する。        |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 14  | 子どもの精神保健とその課題Ⅱ 子どもの心の健康に関わる問題   | 発達、ことば、摂食の問題を中心に考える。                  |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 15  | 子どもの精神保健とその課題Ⅲ 子どもの心の健康に関わる問題   | 排泄、睡眠、習癖の問題を中心に考える。                   |                              |                           | 個人・グループ                            |
| 期末試験  | なし                              | 評価方法                                  | 課題の達成度<br>70%<br>受講態度<br>10% | 授業への貢献<br>20%             |                                    |
| 【教科書】   | 最新保育士養成講座第6巻「子どもの発達理解と援助(全社協)   |                                       |                              |                           |                                    |
| 【参考書】   | 保育所保育指針解説書(厚生労働省)               |                                       |                              |                           |                                    |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習と課題の提出  |                                 |                                       |                              |                           |                                    |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                            | 【質問方法】                                | 教員室にて                        |                           |                                    |

| 【科目名】  |  | 【担当教員】                     |          |                                     | 【科目責任者】 |
|--|--|----------------------------|----------|-------------------------------------|---------|
| 子どもの食と栄養(1/2)  |  | 辻 匡子                       |          | 一般                                  | 勝見      |
| 【対象学科】   | 【学年】                                       | 【開講時期】                     | 【回数(時間)】 | 【授業形態】                              | 【単位】    |
| こども未来学科  | 2  | 通年                         | 30(60)   | 講義                                  | 2       |
| 【授業の概要・目的】   |  |                            |          |                                     |         |
| <p>健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。</p> |  |                            |          |                                     |         |
| 【学習目標(到達目標)】   |  |                            |          | 【受講して得られる力】                         |         |
| <p>子どもは日々、目覚ましい発育、発達を遂げつつあり、食生活と栄養について学ぶことはもちろん、自己の食への意識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養う。</p>   |  |                            |          | <p>発達援助技術<br/>生活援助技術<br/>相談支援技術</p> |         |
| 【履修上の注意】   |  |                            |          |                                     |         |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)                               | 授業の内容・目標(使用教材等)            |          |                                     | 授業方法    |
| 1  | 心身の健康と食生活                                  | 健康とは何かを考える。                |          |                                     | 個人      |
| 2  | 心身の健康と食生活                                  | 心身の健康増進と食生活について理解する。       |          |                                     | 個人      |
| 3  | 食生活の現状と課題                                  | 栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。 |          |                                     | 個人      |
| 4  | 食生活の現状と課題                                  | 栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。 |          |                                     | 個人      |
| 5  | 食生活の現状と課題                                  | 生活リズムと課題について理解する。          |          |                                     | 個人      |
| 6  | 栄養に関する基本的知識                                | 栄養素の種類と機能についての知識を身につける。    |          |                                     | 個人      |
| 7  | 栄養に関する基本的知識                                | 栄養素の種類と機能についての知識を身につける。    |          |                                     | 個人      |
| 8  | 栄養に関する基本的知識                                | 栄養素の種類と機能についての知識を身につける。    |          |                                     | 個人      |
| 9  | 栄養に関する基本的知識                                | 栄養素の種類と機能についての知識を身につける。    |          |                                     | 個人      |
| 10   | 栄養に関する基本的知識                                | 栄養素の種類と機能についての知識を身につける。    |          |                                     | 個人      |
| 11   | 食事摂取基準について                                 | 算定概要と必要量について理解する。          |          |                                     | 個人      |
| 12   | 食事摂取基準について                                 | 算定概要と必要量について理解する。          |          |                                     | 個人      |
| 13   | 食事摂取基準について                                 | 算定概要と必要量について理解する。          |          |                                     | 個人      |
| 14   | 食事摂取基準について                                 | 算定概要と必要量について理解する。          |          |                                     | 個人      |
| 15   | 献立作成と調理の基本                                 | 基本の作成方法を理解する。              |          |                                     | 個人      |
| 期末試験   | 筆記試験                                       | 評価方法                       |          |                                     |         |
| 【教科書】  | 新ビジュアル食品成分表(大修館書店)<br>発育期の子どもの食生活と栄養(学件書院) |                            |          |                                     |         |
| 【参考書】  |  |                            |          |                                     |         |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  |  |                            |          |                                     |         |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員                                       | 【質問方法】                     |          |                                     |         |

| 【科目名】   |  | 【担当教員】                                     |          |                            | 【科目責任者】 |
|---|--|--|----------|----------------------------|---------|
| 子どもの食と栄養(2/2)   |  | 辻 匡子                                       |          |                            | 一般 勝見   |
| 【対象学科】  | 【学年】                                       | 【開講時期】                                     | 【回数(時間)】 | 【授業形態】                     | 【単位】    |
| こども未来学科   | 2  | 通年   | 30(60)   | 演習                         | 2       |
| 【授業の概要・目的】  |  |  |          |                            |         |
| 健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。 |  |  |          |                            |         |
| 【学習目標(到達目標)】  |  |  |          | 【受講して得られる力】                |         |
| 子どもは日々、目覚ましい発育、発達を遂げつつあり、食生活と栄養について学ぶことはもちろん、自己の食への意識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養う。   |  |  |          | 発達援助技術<br>生活援助技術<br>相談支援技術 |         |
| 【履修上の注意】  |  |  |          |                            |         |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                               | 授業の内容・目標(使用教材等)                            |          |                            | 授業方法    |
| 1   | 乳児期の心身の特徴と食生活                              | 乳児期の食行動について理解する。                           |          |                            | グループ    |
| 2   | 乳児期の心身の特徴と食生活                              | 乳汁栄養についての理解する。                             |          |                            | グループ    |
| 3   | 乳児期の心身の特徴と食生活                              | 実習を通して人工栄養について理解する。                        |          |                            | グループ    |
| 4   | 離乳の意義と実施                                   | 離乳の必要性についての知識を身につける。                       |          |                            | グループ    |
| 5   | 離乳の意義と実施                                   | 実習を通して離乳食についての知識を身につける。<br>(離乳食の実習①)       |          |                            | グループ    |
| 6   | 離乳の意義と実施                                   | 離乳食作りの留意点について理解する。                         |          |                            | グループ    |
| 7   | 離乳の意義と実施                                   | 実習を通して離乳食についてに知識を身につける。<br>(離乳食の実習②)       |          |                            | グループ    |
| 8   | 幼児期の心身の発達と食生活                              | 幼児期の成長と発達について理解する。                         |          |                            | グループ    |
| 9   | 幼児期の心身の発達と食生活                              | 実習を通して幼児期の食事についての知識を身につける。<br>(幼児期の食事の実習①) |          |                            | グループ    |
| 10  | 幼児期の心身の発達と食生活                              | 幼児期の間食について理解する。                            |          |                            | グループ    |
| 11  | 幼児期の心身の発達と食生活                              | 実習を通して幼児期の間食についての知識を身につける。<br>(幼児期の食事の実習②) |          |                            | グループ    |
| 12  | 学童期の心身の発達と食生活                              | 学童期の身体・精神的発達について理解する。                      |          |                            | グループ    |
| 13  | 学童期の心身の発達と食生活                              | 学童期の食生活と学校給食について理解する。                      |          |                            | グループ    |
| 14  | 学童期の心身の発達と食生活                              | 学童期の食育と夜食について理解する。                         |          |                            | グループ    |
| 15  | まとめ  |  |          |                            | グループ    |
| 期末試験  | 実技試験                                       | 評価方法                                       |          |                            |         |
| 【教科書】   | 新ビジュアル食品成分表(大修館書店)<br>発育期の子どもの食生活と栄養(学健書院) |  |          |                            |         |
| 【参考書】   |  |  |          |                            |         |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】   |  |  |          |                            |         |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                                       | 【質問方法】                                     |          |                            |         |

| 【科目名】   |              | 【担当教員】  |              |  | 【科目責任者】                      |
|---|--------------|---|--------------|--|------------------------------|
| 言葉指導法<br>※実務経験のある教員の授業科目  |              | 勝見 恵子   |              |  | 幼稚園(教諭)<br>保育園(保育士)<br>30年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】         | 【開講時期】  | 【回数(時間)】     | 【授業形態】   | 【単位】                         |
| こども未来学科   | 2            | 前期  | 15(30)       | 演習   | 1                            |
| 【授業の概要・目的】  |              |   |              |  |                              |
| 子どもが、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うための技術を身に付ける。   |              |   |              |  |                              |
| 【学習目標(到達目標)】  |              |   |              | 【受講して得られる力】  |                              |
| ① 領域「言葉」のねらい、内容について理解し、説明することができる。<br>② 言葉を育てる遊びを構想することができる。<br>③ 保育教材を作り、実演を通して実践力を身に付けることができる。<br>④ 環境による保育と子どもの言葉の育ちの関係について理解することができる。<br>⑤ 言葉の発達の基本的な筋道を理解することができる。 |              |   |              | 発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術<br>遊びの展開技術<br>コミュニケーション技術 |                              |
| 【履修上の注意】 授業内容によって持参するものが変わるため、忘れ物をしないよう気を付けてください。   |              |   |              |  |                              |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等)   |              |  | 授業方法                         |
| 1   | 領域「言葉」とは     | 領域「言葉」のねらい、内容を学び、言葉を育てる援助と指導上の留意点について理解する。                  |              |  | 個人                           |
| 2   | 子どもの言葉と育ち    | 言葉を育てる保育について、視聴覚教材を使い理解する。                                  |              |  | 個人                           |
| 3   | 言葉と保育        | 子どもの言葉と育ちの支えになる保育と関わりについて理解する。                              |              |  | 個人                           |
| 4   | 特別講義 手話講座    | 言葉である手話に触れ、コミュニケーションの方法を身に付ける。                              |              |  | グループ                         |
| 5   | 言葉の発達と保育者の援助 | 胎児期から乳児期の発達や大人の関わりと言葉の影響について理解する。                           |              |  | グループ                         |
| 6   | 言葉の発達と保育者の援助 | 1～2歳児の保育者の関係性と言葉の発達の影響について調べる。言葉を介した関わりについて、事例をあげ関わり方を理解する。 |              |  | グループ                         |
| 7   | 言葉の発達と保育者の援助 | 3歳児以上の言葉をはぐむ環境について調べる。集団のなかでの保育者の援助について理解する。                |              |  | グループ                         |
| 8   | 言葉と絵本        | 絵本の持つ役割について考え、生活と連続性を踏まえた保育を計画する。                           |              |  | グループ                         |
| 9   | 言葉と絵本        | 絵本を用いた遊びの活動を考え、模擬保育を行う。                                     |              |  | グループ                         |
| 10  | 言葉を豊かにする保育教材 | 乳幼児が言葉を楽しめるシアターを製作し、保育技術を身に付ける。                             |              |  | 個人                           |
| 11  | 言葉を豊かにする保育教材 | 乳幼児が言葉を楽しめるシアターを製作し、保育技術を身に付ける。                             |              |  | 個人                           |
| 12  | 言葉を豊かにする保育教材 | 乳幼児が言葉を楽しめるシアターを製作し、保育技術を身に付ける。                             |              |  | 個人                           |
| 13  | 言葉を豊かにする保育教材 | 乳幼児が言葉を楽しめるシアターを製作し、保育技術を身に付ける。                             |              |  | 個人                           |
| 14  | 特別講義 手話講座    | 手話を使ったコミュニケーションを身に付ける。                                      |              |  | グループ                         |
| 15  | 言葉を豊かにする保育教材 | 生活の連続性を踏まえ、シアターを用いた保育の展開について習得する。                           |              |  | 個人                           |
| 期末試験  | 実技試験         | 評価方法  | 実技試験<br>受講態度 | 50%<br>20%   | 課題の達成度<br>30%                |
| 【教科書】   |              |   |              |  |                              |
| 【参考書】   |              | 保育内容・言葉(同文書院)<br>対話的・深い学びの保育内容「人間関係」(萌文書林)                  |              |  |                              |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 沢山の絵本に触れてください。  |              |   |              |  |                              |
| 【本講義に関する質問先】  |              | 担当教員  | 【質問方法】       | 教員室にて  |                              |



| 【科目名】  |                       | 【担当教員】   |            |   | 【科目責任者】  |
|--|-----------------------|--|------------|---|----------|
| 表現指導法  |                       | 大城 泰造  |            |   | 一般<br>勝見 |
| 【対象学科】   | 【学年】                  | 【開講時期】   | 【回数(時間)】   | 【授業形態】  | 【単位】     |
| こども未来学科  | 2                     | 前期   | 15(30)     | 演習  | 1        |
| 【授業の概要・目的】   |                       |  |            |   |          |
| <p>養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を主に「表現」の領域の観点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする発達の援助について具体的に学ぶ。</p>   |                       |  |            |   |          |
| 【学習目標(到達目標)】   |                       |  |            | 【受講して得られる力】   |          |
| <p>①保育における造形活動の意義について理解し、実践プログラムを作成することができる。<br/>         ②保育における造形活動にふさわしい環境の構成を行うことができる。<br/>         ③保育における表現場面で言葉がけを中心とした適切な援助について配慮できる。<br/>         ④保育の質的向上を目指した実践の省察と再計画化を行う姿勢を構築できる。<br/>         ⑤理論の根拠等を相互に探求し合い、PDCA型学習を実践できるようになる。</p> |                       |  |            | <p>造形活動の展開技術<br/>         環境構成能力<br/>         コミュニケーション技術<br/>         批判的思考力<br/>         問題解決能力</p> |          |
| 【履修上の注意】   |                       | 受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります。                      |            |   |          |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)          | 授業の内容・目標(使用教材等)  |            |   | 授業方法     |
| 1  | ガイダンス                 | 講義の進め方についての説明と講義「保育内容の中の表現とは」保育における造形表現の役割を理解し、全体の学びの方法論を習得する。 |            |   | 個人       |
| 2  | 保育における表現指導の意義         | 「美術教育の意義と保育における表現の理解」美術教育の意義と保育における表現の理解について理解する。              |            |   | 個人       |
| 3  | 粘土制作 制作研究①            | 粘土 粘土制作の体験と制作の発想について理解する。                                      |            |   | 個人       |
| 4  | 粘土制作 制作研究②            | 土粘土 土粘土で協同制作に取り組み、素材の体験と協同制作を通して造形表現の可能性を探り、指導できるようになる。        |            |   | ペア・グループ  |
| 5  | 共同制作 制作研究③            | 絵画の共同制作 絵の具を用いての描画活動を通して道具の扱いや表現の在り方を探り、指導できるようになる。            |            |   | ペア・グループ  |
| 6  | 対話型鑑賞 ギャラリートーク①       | 対話型鑑賞 対話型鑑賞について学び、実践のポイントを理解する。                                |            |   | グループ     |
| 7  | 対話型鑑賞 ギャラリートーク②       | 対話型鑑賞の模擬的体験 対話型鑑賞を模擬的に体験しその効果や留意点を理解する。                        |            |   | グループ     |
| 8  | 乳幼児の表現の理解 制作研究④       | 子ども表現の特徴を学ぶ 乳幼児期の遊び、表現の特徴を理解する。                                |            |   | 個人       |
| 9  | 2歳児の表現の理解 制作研究⑤       | 子ども表現の特徴を学ぶ 2歳児の活動について映像や実技制作から学び、理解する。                        |            |   | 個人       |
| 10   | 3, 4, 5歳児の表現の理解 制作研究⑥ | 3, 4, 5歳児の遊び 3歳以上児の表現における特性を学び、理解する。                           |            |   | 個人       |
| 11   | グループワーク ロールプレイング①     | グループワークのはじまり グループ討議、教材準備を通して環境構成について学び、理解する。                   |            |   | グループ     |
| 12   | グループワーク ロールプレイング②     | 前半グループの実施、振り返り 具体的な事例について相互学習を通して理解する。                         |            |   | グループ     |
| 13   | グループワーク ロールプレイング③     | 後半グループの実施、振り返り 具体的な事例について相互学習を通して理解する。                         |            |   | グループ     |
| 14   | グループワーク ロールプレイング④     | 前半・後半を通して比較・検討する 具体的な事例について相互学習を通して理解する。                       |            |   | グループ     |
| 15   | 総括(学びのシェア)            | 遊び計画案・プレゼンテーションー学びのシェア これまでの総括を行い、意見交換や相互学習を通して学びのシェアを行う。      |            |   | 個人・グループ  |
| 期末試験   |                       | 評価方法   | 課題の達成度 70% | 受講態度 30%  |          |
| 【教科書】  | 講義内で必要なコピーを配布します。     |  |            |   |          |
| 【参考書】  | 講義内で必要なコピーを配布します。     |  |            |   |          |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  |                       | ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習をすること。     |            |   |          |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員                  | 【質問方法】   | メール連絡      |   |          |

| 【科目名】   |                                   | 【担当教員】  |              |                                   | 【科目責任者】                 |
|---|-----------------------------------|---|--------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 子どもの生活と遊び(表現と運動)Ⅱ<br>※実務経験のある教員の授業科目  |                                   | 鍋山 友子   |              |                                   | 高等学校(教員)<br>36年勤務<br>鍋山 |
| 【対象学科】  | 【学年】                              | 【開講時期】  | 【回数(時間)】     | 【授業形態】                            | 【単位】                    |
| こども未来学科   | 2                                 | 前期  | 15(30)       | 演習                                | 1                       |
| 【授業の概要・目的】  |                                   |   |              |                                   |                         |
| 保育の内容・方法に関する科目として位置づけ、1年次で習得した知識や技術をもとに、さまざまな表現活動や運動遊びの援助ができるよう、必要な知識や身体表現の技能をさらに高め、定着させる。  |                                   |   |              |                                   |                         |
| 【学習目標(到達目標)】  |                                   |   |              | 【受講して得られる力】                       |                         |
| ①保育の内容を理解し身体表現の表現活動に関する知識や技術を習得する。<br>②表現活動教材等の活用及び、具体的展開のための実践技術を習得する。<br>③リズムカルな動きと、自由に表現できるテクニックを習得する。<br>④チームの中で互いに協力し、コミュニケーション技術を身に付けることができる。 |                                   |   |              | 前に踏み出す力<br>チームで働く力<br>コミュニケーション技術 |                         |
| 【履修上の注意】  |                                   | 運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。                                  |              |                                   |                         |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                      | 授業の内容・目標(使用教材等)   |              |                                   | 授業方法                    |
| 1   | ガイダンス ストレッチ体操 ジャズダンス              | 授業内容及び準備物・服装・評価方法の確認をする。<br>①ジャズダンス既成作品を4分の1まで覚える。              |              |                                   | 個人                      |
| 2   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス                | ②ジャズダンス既成作品を2分の1まで覚える。<br>①の続きをスローテンポで正確に覚え②の順序を確認する。           |              |                                   | 個人                      |
| 3   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス                | ③ジャズダンス既成作品を4分の3まで覚える。<br>②の続きをスローテンポで正確に覚え③の順序を確認する。           |              |                                   | 個人                      |
| 4   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス                | ④ジャズダンス既成作品を最後まで覚えるよう、グループで練習する。<br>①～③そして④へと繋がる振り付け順序を確認し、覚える。 |              |                                   | グループ                    |
| 5   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス                | ジャズダンス既成作品をグループで通して踊り練習する。<br>難しい箇所を重点に練習し、振り付け順序をしっかりと把握する。    |              |                                   | グループ                    |
| 6   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス                | グループでジャズダンス既成作品の踊り込みをする。<br>速いテンポに慣れるよう、反復練習を徹底する。              |              |                                   | グループ                    |
| 7   | ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス到達度確認           | ジャズダンス既成作品をグループでリズムカルに、伸びやかに踊る。<br>しっかりと練習した後に到達度を確認する。         |              |                                   | グループ                    |
| 8   | ストレッチ体操 即興表現①彫刻遊び                 | ①彫刻遊びをテーマに自由に表現する。<br>1人～2人、そして5人へと人数を増やしながら表現していく。             |              |                                   | グループ                    |
| 9   | ストレッチ体操 即興表現②エア楽器遊び③私は新聞紙         | ②エア楽器遊び③私は新聞紙をテーマに自由に表現する。<br>2人組からグループ単位でテーマに沿って表現し、合評会を行う。    |              |                                   | グループ                    |
| 10  | ストレッチ体操 即興表現④ポーズ遊び⑤もしものカード        | ④ポーズ遊び⑤もしものカードに合うストーリーを作り、創作する。<br>グループ単位で創作発表をした後に合評会を行う。      |              |                                   | グループ                    |
| 11  | ストレッチ体操 即興・創作ダンス⑥一日の始まり⑦かぼちゃのつるが  | ⑥一日の始まり⑦詩「かぼちゃのつるが」をテーマにストーリーを創作する。グループ単位で創作発表をした後に合評会を行う。      |              |                                   | グループ                    |
| 12  | ストレッチ体操 創作ダンス⑧春夏秋冬                | ⑧春夏秋冬のテーマで題材を選び、創作する。<br>グループ単位で2つの季節を選んで創作する。                  |              |                                   | グループ                    |
| 13  | ストレッチ体操 創作ダンス⑧春夏秋冬                | ⑧春夏秋冬のテーマで題材を選び、創作する。<br>2つの季節のストーリーと曲想に合った振り付けをグループで考える。       |              |                                   | グループ                    |
| 14  | ストレッチ体操 創作ダンス⑧春夏秋冬□               | ⑧グループで春夏秋冬の創作、完成を目指す。<br>最初から通して踊り、改善点を探る。                      |              |                                   | グループ                    |
| 15  | ストレッチ体操 発表会⑧春夏秋冬                  | ⑧春夏秋冬創作、完成した作品の踊り込みをしたのちに発表会を行い、堂々とのびやかに踊る。発表会の後に合評会を行い意見を交換する。 |              |                                   | グループ                    |
| 期末試験  | 身体表現・発表力等の実技及び演習レポート・縄跳びで評価する。    | 評価方法  | 実技試験<br>レポート | 70%<br>20%                        | 受講態度<br>10%             |
| 【教科書】   | 特に使用しないが、必要に応じて資料を配付する。           |   |              |                                   |                         |
| 【参考書】   | 保育の中の運動遊び(萌文書林)<br>保育内容「表現」(杏林書院) |   |              |                                   |                         |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ジャズダンスの振り付け確認と踊り込みの復習に力を入れること。   |                                   |   |              |                                   |                         |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                              | 【質問方法】  | 教員室にて        |                                   |                         |

| 【科目名】  |   | 【担当教員】   |  |                      | 【科目責任者】 |
|--|---|--|--|----------------------|---------|
| 子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅱ   |   | 熊田 桂子  |  | 一般                   | 勝見      |
| 【対象学科】   | 【学年】  | 【開講時期】   | 【回数(時間)】   | 【授業形態】               | 【単位】    |
| こども未来学科  | 2   | 前期   | 15(30)   | 演習                   | 1       |
| 【授業の概要・目的】   |   |  |  |                      |         |
| 子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また、音楽とリズムⅠと同様に、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の基礎的な技能を習得する。さらに、保育に関わる歌を使った遊びの展開について学ぶ。                        |   |  |  |                      |         |
| 【学習目標(到達目標)】   |   |  |  | 【受講して得られる力】          |         |
| ①「音楽とリズムⅠ」に引き続き、音楽を構成する要素の基礎知識を身につける。<br>②季節や生活にかかわる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようになる。<br>③様々な子どもの歌の簡単なピアノ伴奏を弾けるようになる。<br>④簡単な伴奏に合わせて、歌を歌えるようになる。 |   |  |  | 遊びの展開技術              |         |
| 【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日練習するように努めてください。   |   |  |  |                      |         |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)  | 授業の内容・目標(使用教材等)  |  |                      | 授業方法    |
| 1  | オリエンテーション   | 授業内容、目的、授業の進め方について理解する。音楽とリズムⅠの復習。                         |  |                      | 個人      |
| 2  | 4月のうた①  | 楽譜の読み方の復習。リズム読み。4月のうたを歌う。子どもの曲の簡単な伴奏を練習する。                 |  |                      | 個人      |
| 3  | 4月のうた②  | リズム読み。音程の度数について学ぶ。4月の歌を歌う。リズムを打ちながら、子どもの歌を歌う。              |  |                      | 個人      |
| 4  | 5月のうた①  | 2, 3, 6, 7度音程について学ぶ。5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。            |  |                      | 個人      |
| 5  | 5月のうた②  | 1, 4, 5, 8度音程について学ぶ。5月の歌を歌う。簡易楽器の合奏を紅あわせながら子どもの歌を歌う。       |  |                      | 個人・グループ |
| 6  | 6月のうた①  | 音程についての練習問題を解きながら、理解を深める。6月のうたを歌う。子どもの歌をピアノで弾けるように仕上げる。    |  |                      | 個人      |
| 7  | 6月のうた②  | 音階の仕組みについて理解する。6月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。                     |  |                      | 個人      |
| 8  | 7月のうた①  | 音階と調性について理解する。7月のうたを歌う。引き続きピアノで練習する。                       |  |                      | 個人      |
| 9  | 7月のうた②  | 7月のうたを歌う。音程と和音の仕組みについて理解する。コード弾きをできるようにする。ピアノで弾き歌いの練習をする。  |  |                      | 個人      |
| 10   | 8月のうた①  | 8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。                                 |  |                      | 個人      |
| 11   | 8月のうた②  | 8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。                                 |  |                      | 個人      |
| 12   | 9月のうた①  | 9月のうたを歌う。実技発表の発表曲の選曲と練習をする。                                |  |                      | 個人      |
| 13   | 9月のうた②  | 9月のうたを歌う。実技発表の曲を練習する。                                      |  |                      | 個人      |
| 14   | 課題練習  | 実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。                                     |  |                      | 個人      |
| 15   | 課題練習  | 実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。                                     |  |                      | 個人      |
| 期末試験   |   | 評価方法   | 受講態度 10%<br>小テスト 10%   | 筆記試験 40%<br>実技試験 40% |         |
| 【教科書】  | 子どもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所)<br>幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社)<br>ジュニアクラスの楽典 テキスト・ワーク(デプロMP) |  |  |                      |         |
| 【参考書】  | いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100(チャイルド本社)  |  |  |                      |         |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  |   | ピアノの練習を少しでもいいのでできるだけ毎日練習すること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。 |  |                      |         |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員  | 【質問方法】   | メール連絡 <a href="mailto:kumachan@v2.dion.ne.jp">kumachan@v2.dion.ne.jp</a> |                      |         |

| 【科目名】   |   | 【担当教員】  |  |                        | 【科目責任者】       |
|---|---|---|--|------------------------|---------------|
| 子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅲ  |   | 熊田 桂子   |  | 一般                     | 勝見            |
| 【対象学科】  | 【学年】  | 【開講時期】  | 【回数(時間)】   | 【授業形態】                 | 【単位】          |
| こども未来学科   | 2   | 後期  | 15(30)   | 演習                     | 1             |
| 【授業の概要・目的】  |   |   |  |                        |               |
| 保育の中で、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また身近な音や音楽に親しむ遊びの経験を通して、子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。  |   |   |  |                        |               |
| 【学習目標(到達目標)】  |   |   |  | 【受講して得られる力】            |               |
| ①様々な音楽遊びを体験し、乳幼児期の発達に合わせた音楽遊びの展開例を知る。<br>②様々なアイデアや工夫によって、音や音楽遊びを取り入れた指導案を作成できるようにする。<br>③模擬保育を通して、いろいろなアイデアを得るとともに、実践力をつける。<br>④自分自身の表現力も豊かにしていく。 |   |   |  | 遊びの展開技術<br>コミュニケーション技術 |               |
| 【履修上の注意】 実技の練習をできる限り毎日練習するように努めてください。   |   |   |  |                        |               |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)  | 授業の内容・目標(使用教材等)   |  |                        | 授業方法          |
| 1   | オリエンテーション   | 授業の内容、目的、進め方について理解する。これまでのピアノの実技の復習。                              |  |                        | 個人            |
| 2   | 音探検   | 環境の中の「音」について考え、どんな音があるか音探しをする。こどもの歌のピアノ弾き歌いの練習。                   |  |                        | 個人・グループ       |
| 3   | 音からイメージへ  | 音を聴き、感じたものを色や形などでイメージし、絵で表す。次にイメージした絵や図から、音へ変換し、楽器で演奏する。          |  |                        | 個人・グループ       |
| 4   | 子どもの音楽と遊びの関係  | 音楽が乳幼児期の発達に対し、どんな関わりや意義があるかを考える。そのための保育者の役割を考える。                  |  |                        | 個人            |
| 5   | リトミック   | 音やリズムを感じて、体で表現する。こどもの歌に合わせて体を動かす。                                 |  |                        | 個人・グループ       |
| 6   | 手遊び作り   | 知っている手遊びの確認。こどもの歌の幼児の発達に即した手遊びを考える。                               |  |                        | 個人・ペア・グループ    |
| 7   | 即興リズムアンサンブル   | 簡易楽器、ハンドベルやドレミパイプを使ってリズム遊びの展開例を考える。楽譜がなくても即興的な合奏を体験し、リズムの重なりを楽しむ。 |  |                        | グループ          |
| 8   | ボディーパーカッション   | 体を使ったリズム遊びをする。体を使って音を出し、リズム合奏をする。                                 |  |                        | グループ          |
| 9   | 手作り楽器   | 身近な材料で楽器を作ってみる。手作り楽器で音をだして遊ぶ。                                     |  |                        | 個人            |
| 10  | アンサンブルを楽しむ  | 手作り楽器や簡易楽器を使った遊びを学ぶ。簡易楽器による合奏を楽しむ。                                |  |                        | 個人・グループ       |
| 11  | 模擬保育と振り返り①  | 音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。                              |  |                        | 個人・グループ       |
| 12  | 模擬保育と振り返り②  | 音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。                              |  |                        | 個人・グループ       |
| 13  | 模擬保育と振り返り③  | 音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。                              |  |                        | 個人・グループ       |
| 14  | 模擬保育と振り返り④  | 音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。                              |  |                        | 個人・グループ       |
| 15  | 模擬保育と振り返り⑤  | 音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。                              |  |                        | 個人・グループ       |
| 期末試験  |   | 評価方法  | 受講態度<br>レポート   | 20%<br>30%             | 発表会の結果<br>50% |
| 【教科書】   | わくわく音遊びでかんたん発表会—手拍子ゲームから器楽合奏まで(鈴木出版)  |   |  |                        |               |
| 【参考書】   | こどもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所)<br>幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) |   |  |                        |               |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 ピアノの練習をする。普段から音楽と結びつけた音楽遊びを考えておく。授業内で出た課題は期限までにやっておく。  |   |   |  |                        |               |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員  | 【質問方法】  | メール連絡 <a href="mailto:kumachan@v2.dion.ne.jp">kumachan@v2.dion.ne.jp</a> |                        |               |

| 【科目名】   |                           | 【担当教員】  |          |                                 | 【科目責任者】  |
|---|---------------------------|---|----------|---------------------------------|----------|
| 子どもの健康と安全   |                           | 高萩 和子   |          |                                 | 一般<br>勝見 |
| 【対象学科】  | 【学年】                      | 【開講時期】  | 【回数(時間)】 | 【授業形態】                          | 【単位】     |
| こども未来学科   | 2                         | 前期  | 15(30)   | 演習                              | 1        |
| 【授業の概要・目的】  |                           |   |          |                                 |          |
| 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・危機管理・事故防止及び安全対策・感染症対策について理解し、子どもの体調不良や発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。 |                           |   |          |                                 |          |
| 【学習目標(到達目標)】  |                           |   |          | 【受講して得られる力】                     |          |
| ①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解を深める。   |                           |   |          | 発達援助技術                          |          |
| ②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策について、具体的に理解する。                   |                           |   |          | 生活援助技術                          |          |
| ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解し説明できる。  |                           |   |          | 環境構成技術                          |          |
| ④子どもの発達や状態に即した適切な対応について、具体的に理解し説明できる。   |                           |   |          | 相談支援技術                          |          |
| 【履修上の注意】  |                           |   |          | 履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してこよう。 |          |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)              | 授業の内容・目標(使用教材等)                               |          | 授業方法                            |          |
| 1   | 保健的観点をふまえた保育環境および援助       | 子どもの健康と保育の環境について知る。                           |          | 個人                              |          |
| 2   | 保健的観点をふまえた保育環境および援助       | 個別対応と集団全体の健康および安全の管理について理解する                  |          | 個人                              |          |
| 3   | 保育における健康および安全の管理          | 手洗い演習を通して施設内の衛生管理・職員の衛生管理についての知識を身につける。       |          | 個人・グループ                         |          |
| 4   | 保育における健康および安全の管理          | 嘔吐物の処理法演習①を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。     |          | 個人・グループ                         |          |
| 5   | 保育における健康および安全の管理          | 嘔吐物処理法の演習②を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。     |          | 個人・グループ                         |          |
| 6   | 保育における健康および安全の管理          | 事故防止および安全対策について理解する。                          |          | 個人                              |          |
| 7   | 保育における健康および安全の管理          | 危機管理、災害への備えについて理解する。                          |          | 個人                              |          |
| 8   | 子どもの体調不良等に対する適切な対応        | 体調不良が発生した場合の対応について理解する。                       |          | 個人                              |          |
| 9   | 子どもの体調不良等に対する適切な対応        | 緊急を要する状況への対処方法について理解する。                       |          | 個人                              |          |
| 10  | 子どもの体調不良等に対する適切な対応        | 応急手当の方法を身につける。                                |          | 個人                              |          |
| 11  | 感染症対策                     | 感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応、疾病の支援体制について理解する。    |          | 個人                              |          |
| 12  | 保育における保健的対応               | 3歳児未満への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解する。          |          | 個人                              |          |
| 13  | 保育における保健的対応               | 障害のある子どもへの対応について理解する。                         |          | 個人                              |          |
| 14  | 健康および安全管理の実施体制            | 職員間の連携・協働と組織的取組み、保健活動の計画および評価、地域との連携について理解する。 |          | 個人                              |          |
| 15  | まとめ                       | 前期学習のまとめを行う。                                  |          | 個人                              |          |
| 期末試験  | 筆記試験                      | 評価方法  | 課題の達成度   | 100%                            |          |
| 【教科書】   | 子どもの健康と安全 (学建書院)          |   |          |                                 |          |
| 【参考書】   | 子どもの保健演習ノート 改訂第3版(診断と治療社) |   |          |                                 |          |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】   |                           | 現在、マスメディア等で子どもの健康についてどのような事が話題になっているか関心を示す。   |          |                                 |          |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                      | 【質問方法】  | 教員室にて    |                                 |          |

| 【科目名】   |                                  | 【担当教員】  |                            |  | 【科目責任者】                           |
|---|----------------------------------|---|----------------------------|--|-----------------------------------|
| 障害児保育(1/2)<br>※実務経験のある教員の授業科目   |                                  | 小坂 徹  |                            |  | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務<br>小坂 |
| 【対象学科】  | 【学年】                             | 【開講時期】  | 【回数(時間)】                   | 【授業形態】   | 【単位】                              |
| こども未来学科   | 2                                | 通年  | 30(60)                     | 演習   | 2                                 |
| 【授業の概要・目的】  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 障害児保育の理念や歴史の変遷について学び、障害児保育について理解する。また、各種障害についての理解を深め、障害児の援助方法や環境構成についても学び、他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。さらに障害のある子どもの保護者への支援や、保険、医療などの関係機関との連携についても理解を深める。 |                                  |   |                            |  |                                   |
| 【学習目標(到達目標)】  |                                  |   |                            | 【受講して得られる力】                                    |                                   |
| ①「障害」について説明できる。<br>②各種障害について説明できる。<br>③各種障害のある子どもの保育について理解する。<br>④家庭及び関係機関との連携とその必要性、方法について理解する。  |                                  |   |                            | 考え抜く力<br>相談支援技術<br>チームで働く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術 |                                   |
| 【履修上の注意】 慈善の予習課題の励行と慈善提出  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                     | 授業の内容・目標(使用教材等)                                       |                            |  | 授業方法                              |
| 1   | オリエンテーション                        | 授業内容と進め方、評価方法、履修上の注意点などについて理解する。また、「障害」についての基本的理解を持つ。 |                            |  | 個人                                |
| 2   | 障害児保育を支える理念Ⅰ                     | 講義:①障害があるとは?②障害がある子どもの保育とは?について理解する。                  |                            |  | 個人                                |
| 3   | 障害児保育を支える理念Ⅱ                     | グループ討議と発表。演習問題を通して理解を深める。                             |                            |  | グループ                              |
| 4   | 障害児保育の基本Ⅰ                        | 講義:発達の見方と発達の評価、障害児保育の対象と保育の場について学ぶ。                   |                            |  | 個人                                |
| 5   | 障害児保育の基本Ⅱ                        | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。                             |                            |  | グループ                              |
| 6   | 知的障害の理解と保育Ⅰ                      | 講義:知的障害の理解と保育について学ぶ。                                  |                            |  | 個人                                |
| 7   | 知的障害の理解と保育Ⅱ                      | 演習問題を通して知的障害の理解を深める。グループ討議と発表。                        |                            |  | グループ                              |
| 8   | 肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と保育Ⅰ           | 講義:肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と保育について学ぶ。                       |                            |  | 個人                                |
| 9   | 肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と保育Ⅱ           | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。                             |                            |  | グループ                              |
| 10  | 発達が気になる子どもの理解と保育Ⅰ                | 講義:発達が気になる子どもとは?また、その発達の支援について学ぶ。                     |                            |  | 個人                                |
| 11  | 発達が気になる子どもの理解と保育Ⅱ                | 演習問題を通して、発達が気になる子どもの保育について学ぶ。                         |                            |  | グループ                              |
| 12  | 発達障害の理解と保育Ⅰ                      | 講義:自閉症、ADHD、LDの理解と保育について学ぶ。                           |                            |  | 個人                                |
| 13  | 発達障害の理解と保育Ⅱ                      | 演習問題を通して、自閉症、LD、ADHDの子どもの理解を深める。                      |                            |  | グループ                              |
| 14  | 保育の計画の作成と記録・評価Ⅰ                  | 講義:子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価について学ぶ。                       |                            |  | 個人                                |
| 15  | 保育の計画の作成と記録・評価Ⅱ                  | 演習問題を通して、理解を深める。グループ討議と発表。                            |                            |  | グループ                              |
| 期末試験  |                                  | 評価方法  | レポート<br>60%<br>受講態度<br>10% | 授業への貢献   | 30%                               |
| 【教科書】   | 障害児保育-子どもとともに成長する保育者を目指して-(萌文書林) |   |                            |  |                                   |
| 【参考書】   | 適宜プリント配布                         |   |                            |  |                                   |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習と課題作成。  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                             | 【質問方法】  | 教員室にて                      |  |                                   |

| 【科目名】   |                                  | 【担当教員】                                  |                            |  | 【科目責任者】                           |
|---|----------------------------------|---|----------------------------|--|-----------------------------------|
| 障害児保育(2/2)<br>※実務経験のある教員の授業科目   |                                  | 小坂 徹                                    |                            |  | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務<br>小坂 |
| 【対象学科】  | 【学年】                             | 【開講時期】                                  | 【回数(時間)】                   | 【授業形態】   | 【単位】                              |
| こども未来学科   | 2                                | 通年                                      | 30(60)                     | 演習   | 2                                 |
| 【授業の概要・目的】  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児保育について理解する。また、各種障害についての理解を深め、障害児の援助方法や環境構成についても学び、他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。さらに障害のある子どもの保護者への支援や、保険、医療などの関係機関との連携についても理解を深める。 |                                  |   |                            |  |                                   |
| 【学習目標(到達目標)】  |                                  |   |                            | 【受講して得られる力】                                    |                                   |
| ①「障害」について説明できる。<br>②各種障害について説明できる。<br>③各種障害のある子どもの保育について理解する。<br>④家庭及び関係機関との連携とその必要性、方法について理解する。  |                                  |   |                            | 考え抜く力<br>相談支援技術<br>チームで働く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術 |                                   |
| 【履修上の注意】 慈善の予習課題の励行と慈善提出  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                     | 授業の内容・目標(使用教材等)                         |                            |  | 授業方法                              |
| 1   | 個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅰ                | 講義:子ども一人一人の発達を促す生活や遊びの環境について学ぶ。         |                            |  | 個人                                |
| 2   | 個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅱ                | 演習問題を通してテーマについて理解を深める。グループ討議と発表。        |                            |  | グループ                              |
| 3   | 他者とのかかわりと育ちあいⅠ                   | 講義:保育者のかかわりと集団保育における配慮について学ぶ。           |                            |  | 個人                                |
| 4   | 他者とのかかわりと育ちあいⅡ                   | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。               |                            |  | グループ                              |
| 5   | 職員間の協力関係Ⅰ                        | 講義:いくつかのエピソードを通して、職員間の連携、協力、情報共有について学ぶ。 |                            |  | 個人                                |
| 6   | 職員間の協力関係Ⅱ                        | 演習問題を通して理解を深める、グループ討議と発表。               |                            |  | グループ                              |
| 7   | 家庭や関係機関との連携Ⅰ                     | 講義:保護者の気持ちを理解した上での連携による支援について学ぶ。        |                            |  | 個人                                |
| 8   | 家庭や関係機関との連携Ⅱ                     | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。               |                            |  | グループ                              |
| 9   | 早期発見と支援Ⅰ                         | 講義:健康診査制度、発達相談と療育資源について理解する。            |                            |  | 個人                                |
| 10  | 早期発見と支援Ⅱ                         | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。               |                            |  | グループ                              |
| 11  | 就学に向けての支援Ⅰ                       | 講義:障害のある子どもの就学先と就学に向けての支援について学ぶ。        |                            |  | 個人                                |
| 12  | 就学に向けての支援Ⅱ                       | 演習問題を通して理解を深める。グループ討議と発表。               |                            |  | グループ                              |
| 13  | 保健・医療における現状と課題                   | 講義:障害のある子どもにかかわる保健・医療の現状と課題について学ぶ。      |                            |  | 個人                                |
| 14  | 福祉・教育における現状と課題                   | 講義:障害のある子どもにかかわる福祉・教育における現状と課題について学ぶ。   |                            |  | グループ                              |
| 15  | 支援の広がりにつながり                      | 事例を通して支援に関する縦と横のつながりについて学ぶ。             |                            |  | グループ                              |
| 期末試験  | なし                               | 評価方法                                    | レポート<br>60%<br>受講態度<br>10% | 授業への貢献<br>30%                                  |                                   |
| 【教科書】   | 障害児保育-子どもとともに成長する保育者を目指して-(萌文書林) |   |                            |  |                                   |
| 【参考書】   | 適宜プリント配布                         |   |                            |  |                                   |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習と課題作成。  |                                  |   |                            |  |                                   |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                             | 【質問方法】                                  | 教員室にて                      |  |                                   |

| 【科目名】  |                   | 【担当教員】                                      |                |                             | 【科目責任者】  |
|--|-------------------|---|----------------|-----------------------------|----------|
| 社会的養護Ⅱ   |                   | 佐藤 篤  |                |                             | 一般 勝見    |
| 【対象学科】   | 【学年】              | 【開講時期】                                      | 【回数(時間)】       | 【授業形態】                      | 【単位】     |
| こども未来学科  | 2                 | 前期  | 15(30)         | 演習                          | 1        |
| 【授業の概要・目的】   |                   |   |                |                             |          |
| 社会的養護の具体的内容や方法を学び、ケーススタディ等から保育士としての支援・役割を理解し、具体的な援助方法についても理解することを目的とする                                 |                   |   |                |                             |          |
| 【学習目標(到達目標)】   |                   |   |                | 【受講して得られる力】                 |          |
| ①社会的養護の歴史的変遷に関する理解を深めることができる<br>②社会的養護に関連する法制度及び実施体制を把握することができる<br>③社会的養護の現状及び課題について理解を深め、自ら考察することができる |                   |   |                | 前に踏み出す力<br>考え抜く力<br>チームで働く力 |          |
| 【履修上の注意】   |                   |   |                |                             |          |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)      | 授業の内容・目標(使用教材等)                             |                |                             | 授業方法     |
| 1  | オリエンテーション         | 社会的養護を必要とする児童の理解<br>講義についての趣旨説明             |                |                             | 個人       |
| 2  | 社会的養護の意義          | 社会的養護を必要とする児童の課題を考察する<br>養護問題発生理由とは何か理解する   |                |                             | 個人       |
| 3  | 社会的養護と権利擁護        | 社会的養護における児童の権利擁護<br>児童の権利に関する条約から子どもの権利を考える |                |                             | 個人・グループ  |
| 4  | ①社会的養護の実施体制       | 社会的養護の仕組み・体系<br>専門職の意義を考える意義を考える            |                |                             | 個人       |
| 5  | ②社会的養護の実施体制       | 専門職の職種について<br>様々な支援内容について理解する               |                |                             | 個人・グループ  |
| 6  | ③社会的養護の実施体制       | 施設養護とは何か<br>施設養護の生活特性および実態を理解する             |                |                             | 個人       |
| 7  | ④社会的養護の実施体制       | 入所施設の実態<br>児童養護施設について理解する                   |                |                             | 個人       |
| 8  | ⑤社会的養護の実施体制       | 入所施設の実態<br>障害児施設について理解する                    |                |                             | 個人・グループ  |
| 9  | 児童虐待と関連法規         | 児童虐待防止法と関係法規<br>虐待への支援方法について理解する            |                |                             | 個人       |
| 10   | 施設養護とソーシャルワーク     | 施設運営管理について<br>ファミリーソーシャルワーカーについて理解する        |                |                             | 個人・グループ  |
| 11   | ①社会的養護の課題         | 生活と援助体系<br>子どもを主体とした生活と援助について理解する           |                |                             | 個人       |
| 12   | ②社会的養護の課題         | 自立支援とは何か<br>子どもの自立支援の充実を図るにはどうするか考察する       |                |                             | 個人       |
| 13   | ③社会的養護の課題         | 子どもの周囲の環境<br>家族・子育て・地域支援の課題について考察する         |                |                             | 個人       |
| 14   | ④社会的養護の課題         | 社会的養護の展望<br>子ども家庭福祉と家族家庭福祉について理解する          |                |                             | 個人       |
| 15   | まとめ               |   |                |                             |          |
| 期末試験   |                   | 評価方法  | 授業への貢献<br>筆記試験 | 20%<br>60%                  | レポート 20% |
| 【教科書】  | 現代の保育と社会的養護(勁草書房) |   |                |                             |          |
| 【参考書】  | なし                |   |                |                             |          |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習は意識的に取り組みましょう   |                   |   |                |                             |          |
| 【本講義に関しての質問先】  | 担当教員              | 【質問方法】                                      | 教員室にて          |                             |          |



| 【科目名】   |   | 【担当教員】  |                        |                            | 【科目責任者】   |
|---|---|---|------------------------|----------------------------|---|
| 子育て支援<br>※実務経験のある教員の授業科目  |   | 鈴木 佳代子  |                        |                            | 鈴木<br><small>幼稚園(教諭)<br/>保育所(保育士)<br/>42年勤務</small> |
| 【対象学科】  | 【学年】  | 【開講時期】  | 【回数(時間)】               | 【授業形態】                     | 【単位】  |
| こども未来学科   | 2   | 後期  | 15(30)                 | 演習                         | 1   |
| 【授業の概要・目的】  |   |   |                        |                            |   |
| 保育士の行う子育て支援について、保育士と保護者の関係形成方法や保育所が行う支援について理解する。また、様々な場面や対象に即した支援の方法や支援の方法や技術を実践的に習得する。 |   |   |                        |                            |   |
| 【学習目標(到達目標)】  |   |   |                        | 【受講して得られる力】                |   |
| ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解できる。        |   |   |                        | 考え抜く力<br>チームで働く力<br>相談支援技術 |   |
| ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できる。                           |   |   |                        |                            |   |
| 【履修上の注意】  |   | 毎回、指示する事前学習内容を教科書や保育所保育指針等で読んでおくこと。           |                        |                            |   |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)  | 授業の内容・目標(使用教材等)                               |                        |                            | 授業方法  |
| 1   | 保育士が行う子育て支援の特性①   | 授業の内容や履修上の注意点を理解する。<br>子どもの保育とともに保護者支援を理解する。  |                        |                            | 個人  |
| 2   | 保育士が行う子育て支援の特性②   | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成を理解する。        |                        |                            | 個人・ペア   |
| 3   | 保育士が行う子育て支援の特性③   | 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。              |                        |                            | 個人・ペア   |
| 4   | 保育士が行う子育て支援の特性④   | 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供を理解する。                |                        |                            | 個人・グループ   |
| 5   | 保育士の行う子育て支援の展開①   | 子ども及び保護者の状況・状態の把握について理解する。                    |                        |                            | 個人  |
| 6   | 保育士の行う子育て支援の展開②   | 支援の計画と環境の構成を理解する。                             |                        |                            | 個人  |
| 7   | 保育士の行う子育て支援の展開③   | 支援の実践・記録・評価・カンファレンスを理解する。                     |                        |                            | 個人  |
| 8   | 保育士の行う子育て支援の展開④   | 職員の連携と協働を理解する。                                |                        |                            | 個人  |
| 9   | 保育士の行う子育て支援の展開⑤   | 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働を理解する。             |                        |                            | 個人・グループ   |
| 10  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)①   | 保育所等における支援を理解する。                              |                        |                            | 個人・グループ   |
| 11  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)②   | 地域の子育て支援家庭に対する支援を理解する。                        |                        |                            | 個人・ペア   |
| 12  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)③   | 障害がある子ども及びその家庭に対する支援を理解する。                    |                        |                            | 個人・グループ   |
| 13  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)④   | 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を理解する。                |                        |                            | 個人・グループ   |
| 14  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)⑤   | 子ども虐待の予防と対応を理解する。                             |                        |                            | 個人・グループ   |
| 15  | 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)⑥   | 要保護児童等の家庭に対する支援を理解する。多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解をする。 |                        |                            | 個人・グループ   |
| 期末試験  | 筆記試験  | 評価方法  | 筆記試験 40%<br>課題の達成度 30% | 受講態度 20%<br>実技試験 10%       |   |
| 【教科書】   | 最新 保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援—家庭支援と子育て支援(全国社会福祉協議会)<br>保育所保育指針指針解説(厚生労働省) |   |                        |                            |   |
| 【参考書】   | 学習の主題に応じて適宜資料を配布する。   |   |                        |                            |   |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】   |   | 授業テーマに関して、保育所保育指針やインターネット等で調べて授業に臨む。          |                        |                            |   |
| 【本講義に関する質問先】  |   | 担当教員  | 【質問方法】                 | 教員室にて                      |   |

| 【科目名】   |                          | 【担当教員】                               |                                      |            | 【科目責任者】  |
|---|--------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------|--|
| 保育実践演習(1/2)<br>※実務経験のある教員の授業科目  |                          | 小坂 <sup>1)</sup> ・鍋山・鈴木・田母神・渡邊・小松・勝見 |                                      |            | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務                            |
| 【対象学科】  | 【学年】                     | 【開講時期】                               | 【回数(時間)】                             | 【授業形態】     | 【単位】   |
| こども未来学科   | 2                        | 後期                                   | 30(60)                               | 演習         | 2  |
| 【授業の概要・目的】  |                          |                                      |                                      |            |  |
| <p>本科目は、保育士資格取得に関わる学習の総まとめにあたる科目であり、自らの学びを振り返り、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着できるようにする。</p>   |                          |                                      |                                      |            |  |
| 【学習目標(到達目標)】  |                          |                                      |                                      |            | 【受講して得られる力】  |
| <p>①保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身につける。<br/>         ②保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理について理解を深める。<br/>         ③保育士の社会性、対人関係能力の必要性について理解を深める。<br/>         ④子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解を深める。<br/>         ⑤保育や子育て家庭に対する支援の展開について理解を深める。</p> |                          |                                      |                                      |            | <p>前に踏み出す力<br/>         考え抜く力<br/>         チームで働く力</p> |
| 【履修上の注意】  |                          |                                      |                                      |            |  |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)             |                                      | 授業の内容・目標(使用教材等)                      |            | 授業方法   |
| 1   | オリエンテーション<br>小坂          |                                      | 本科目の目標と計画、担当者等について理解する。              |            | グループ   |
| 2   | 保育士の意義や役割<br>田母神         |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 3   | 保育士の職務内容Ⅰ<br>田母神         |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 4   | 保育士の職務内容Ⅱ<br>田母神         |                                      | 事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。           |            | グループ   |
| 5   | 保育士の子どもに対する責任、倫理Ⅰ<br>田母神 |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 6   | 保育士の子どもに対する責任、倫理Ⅱ<br>田母神 |                                      | 事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。           |            | グループ   |
| 7   | 社会性・対人関係Ⅰ<br>勝見          |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 8   | 社会性・対人関係Ⅱ<br>勝見          |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 9   | 社会性・対人関係Ⅲ<br>勝見          |                                      | マナーに関するロールプレイングとグループ討議と発表を行い理解を深める。  |            | グループ   |
| 10  | 社会性・対人関係Ⅳ<br>勝見          |                                      | 協調性に関するロールプレイングとグループ討議と発表を行い理解を深める。  |            | グループ   |
| 11  | 社会性・対人関係Ⅴ<br>勝見          |                                      | 保護者との関係に関するロールプレイングとグループ討議を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 12  | 子どもやその家庭の理解Ⅰ<br>渡邊       |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 13  | 子どもやその家庭の理解Ⅱ<br>渡邊       |                                      | テーマに関するロールプレイングとグループ討議と発表を行い理解を深める。  |            | グループ   |
| 14  | 職員間の連携Ⅰ<br>渡邊            |                                      | 実習体験の振り返りと事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。 |            | グループ   |
| 15  | 職員間の連携Ⅱ<br>渡邊            |                                      | 事例についてのグループ討議と発表を行い理解を深める。           |            | グループ   |
| 期末試験  |                          |                                      | 評価方法                                 | 課題の達成度 50% | 授業への貢献 50%   |
| 【教科書】   | 特になし                     |                                      |                                      |            |  |
| 【参考書】   | 保育所保育指針解説書(厚生労働省)        |                                      |                                      |            |  |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各実習日誌内容の確認と実習の振り返り  |                          |                                      |                                      |            |  |
| 【本講義に関しての質問先】   | 担当教員                     |                                      | 【質問方法】                               | 教員室にて      |  |

| 【科目名】  |                          | 【担当教員】  |            |            | 【科目責任者】                     |
|--|--------------------------|---|------------|------------|-----------------------------|
| 保育実践演習(2/2)<br>※実務経験のある教員の授業科目   |                          | 小坂 <sup>1)</sup> ・鍋山・鈴木・田母神・渡邊・小松・勝見                  |            |            | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務 |
| 【対象学科】   | 【学年】                     | 【開講時期】  | 【回数(時間)】   | 【授業形態】     | 【単位】                        |
| こども未来学科  | 2                        | 後期  | 30(60)     | 演習         | 2                           |
| 【授業の概要・目的】   |                          |   |            |            |                             |
| 本科目は、保育士資格取得に関わる学習の総まとめにあたる科目であり、自らの学びを振り返り、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着できるようになる。   |                          |   |            |            |                             |
| 【学習目標(到達目標)】   |                          |   |            |            | 【受講して得られる力】                 |
| ①保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身につける。<br>②保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理について理解を深める。<br>③社会性、対人関係能力について身につける。<br>④子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解を深める。<br>⑤保育や子育て家庭に対する支援の展開についての理解を深める。 |                          |   |            |            | 前に踏み出す力<br>考え抜く力<br>チームで働く力 |
| 【履修上の注意】   |                          |   |            |            |                             |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)             | 授業の内容・目標(使用教材等)                                       |            |            | 授業方法                        |
| 1  | 関係機関との連携<br>渡邊           | 関係機関との連携について実習体験や事例を通して理解する。                          |            |            | グループ                        |
| 2  | 保育や子育て家庭に対する支援の展開Ⅰ<br>鈴木 | 子どもの最善の利益について実習体験や事例を通して理解する。                         |            |            | グループ                        |
| 3  | 保育や子育て家庭に対する支援の展開Ⅱ<br>鈴木 | 保護者との面談技法について実習体験や事例を通して理解する。                         |            |            | グループ                        |
| 4  | 保育や子育て家庭に対する支援の展開Ⅲ<br>鈴木 | 保護者の養育力の向上に資する支援について実習体験や事例を通して理解する。                  |            |            | グループ                        |
| 5  | 保育や子育て家庭に対する支援の展開<br>鈴木  | 子育て支援に必要な社会資源は何か実習体験や事例を通して理解する。                      |            |            | グループ                        |
| 6  | 保育や子育て家庭に対する支援の展開<br>鈴木  | 特別な対応を要する家庭への支援について実習体験や事例を通して理解する。                   |            |            | グループ                        |
| 7  | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅰ<br>鍋山    | グループでテーマを設定し、表現内容を考え計画を立てる。                           |            |            | グループ                        |
| 8  | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅱ<br>鍋山    | 表現内容を吟味し、何をどのように伝えられるかを考える。                           |            |            | グループ                        |
| 9  | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅲ<br>鍋山    | 具体的に展開するための創作に力を注ぎ、技能を高める。                            |            |            | グループ                        |
| 10   | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅳ<br>鍋山    | 場面毎の表現内容が客観的に相手に伝わるよう演じる。                             |            |            | グループ                        |
| 11   | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅴ<br>鍋山    | 創った作品を上手く表現できるか反復練習して技能を高める。                          |            |            | グループ                        |
| 12   | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅵ<br>鍋山    | 最初から通して表現することで、課題や問題点を見つける。                           |            |            | グループ                        |
| 13   | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅶ<br>鍋山    | リハーサルを主体的に行い、創造性を高め指導力に繋げる。                           |            |            | グループ                        |
| 14   | 保育士の表現力と指導力の向上Ⅷ<br>鍋山    | 発表会を行い、自己の役割を気持ちを含めて演じる。<br>発表会後にグループ討議を行い、到達目標を確認する。 |            |            | グループ                        |
| 15   | 総括とまとめ<br>小坂             | 各テーマについてグループ討議と発表を行い理解を深める。                           |            |            | グループ                        |
| 期末試験   |                          | 評価方法  | 課題の達成度 50% | 授業への貢献 50% |                             |
| 【教科書】  | 特になし                     |   |            |            |                             |
| 【参考書】  | 保育所保育指針解説書(厚生労働省)        |   |            |            |                             |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各実習日誌内容の確認と実習の振り返り  |                          |   |            |            |                             |
| 【本講義についての質問先】  |                          | 担当教員  | 【質問方法】     | 教員室にて      |                             |

| 【科目名】  |   | 【担当教員】                   |   |  | 【科目責任者】  |
|--|---|--------------------------|---|--|----------|
| 医療保育総論   |   | 松本 美津子、菊池 信太郎、<br>中村 くみ子 |   |  | 一般<br>勝見 |
| 【対象学科】   | 【学年】  | 【開講時期】                   | 【回数(時間)】  | 【授業形態】   | 【単位】     |
| こども未来学科  | 2   | 後期                       | 15(30)  | 講義   | 2        |
| 【授業の概要・目的】   |   |                          |   |  |          |
| 出生前からの子どもとその母親の状況を知り、親子の全体像を捉える。また、子どもの主な疾患や障害について学び、病児保育や体調不良児童への対応、生活の中での療育活動など医療と保育の連携について理解を深める。 |   |                          |   |  |          |
| 【学習目標(到達目標)】   |   |                          |   | 【受講して得られる力】                                    |          |
| ①医療と保育の具体的な連携方法を説明できる。<br>②小児領域の主な疾患について説明できる。<br>③体調不良児童や障害児の遊びと生活支援を具体的に理解し、実践する。                  |   |                          |   | 考え抜く力<br>チームで働く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術<br>相談支援技術 |          |
| 【履修上の注意】 開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。  |   |                          |   |  |          |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)  |                          | 授業の内容・目標(使用教材等)   |  | 授業方法     |
| 1  | 妊娠～出産までの状況を知る<br>松本   |                          | 妊娠の成立から胎児の成長、新生児について知る。<br>出産から新生児期の育児について、体験を通して理解を深める。      |  | 個人       |
| 2  | 妊娠中の母親の現状を知る<br>松本  |                          | 妊婦生活の苦労や大変さと、夫と家族の協力の必要性を理解する。<br>母親の愛着問題、生育歴など、育児との関係について知る。 |  | 個人       |
| 3  | DVについて知る<br>松本  |                          | DVの種類や被害の影響について正しく理解する。                                       |  | 個人       |
| 4  | 小児を知る<br>菊池   |                          | 子ども(小児)とは。子どもと大人の違いを知る。<br>小児の特性と、医療における小児の分野について知る。          |  | 個人       |
| 5  | 子どもの発達を知る<br>菊池   |                          | 小児の成長と発達について知る。<br>成長や発達の遅れとは何か、成長曲線の描き方、見方を知る。               |  | 個人       |
| 6  | 小児に見られる症状を知る<br>菊池  |                          | 小児でよく見られる症状や気を付けるべき症状を知る。<br>いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。         |  | 個人       |
| 7  | 小児の感染症について知る<br>菊池  |                          | 小児疾患のほとんどを占める感染症について知る。<br>感染症とは、感染症の種類、特性、感染について知る。          |  | 個人       |
| 8  | 小児の主な事故と予防を知る<br>菊池   |                          | 小児で生じやすい主な事故を知る。<br>事故の対策と予防について知る。                           |  | 個人       |
| 9  | 病児病後児保育について知る<br>菊池   |                          | 病児病後児保育とは、病児病後児保育室の実際について知る。<br>絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。 |  | 個人       |
| 10   | 食物アレルギーについて知る<br>菊池   |                          | 食物アレルギーとは、食物アレルギーの主な原因と症状、その対策について知る。                         |  | 個人       |
| 11   | 小児の慢性疾患について知る<br>菊池   |                          | 小児の主な慢性疾患の概要と対応について知る。  |  | 個人       |
| 12   | 病児保育実習  |                          | 小児科及び病児保育室で実習を行い、体験を通して病児の理解を深める。                             |  | ペア       |
| 13   | 言語聴覚士とは<br>中村   |                          | 言語聴覚士の仕事内容を知る。  |  | 個人       |
| 14   | 言語発達とコミュニケーション<br>中村  |                          | 言葉の発達や言葉に関する障害について知る。   |  | 個人       |
| 15   | 摂食嚥下について<br>中村  |                          | 嚥下の仕組み等、詳しい内容を体験を通して知る。                                       |  | 個人       |
| 期末試験   | 筆記試験  |                          | 評価方法  | 筆記試験 50%                                       | 受講態度 50% |
| 【教科書】  | 医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識改訂4版(診断と治療社)<br>子どもの保健演習ノート 改訂3版(診断と治療社)<br>認定病児保育スペシャリスト試験 公式テキスト(栄治出版) |                          |   |  |          |
| 【参考書】  |   |                          |   |  |          |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 「子どもの保健」「子どもの健康と安全」で学習したことを振り返りながら、復習すること。                                      |   |                          |   |  |          |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員  |                          | 【質問方法】  |  |          |

| 【科目名】   |                             | 【担当教員】                               |          |  | 【科目責任者】  |
|---|-----------------------------|--------------------------------------|----------|--|----------|
| 多職種連携総論   |                             | メディカルスポーツ柔道整復学科教員、窪木守、安中聡一、廣田直美、田中絹代 |          | 一般   | 勝見       |
| 【対象学科】  | 【学年】                        | 【開講時期】                               | 【回数(時間)】 | 【授業形態】   | 【単位】     |
| こども未来学科   | 2                           | 後期                                   | 15(30)   | 講義   | 2        |
| 【授業の概要・目的】  |                             |                                      |          |  |          |
| 保育現場における多職種連携、協働の実際を理解し、保育士に関連する専門職の専門性と、それらの専門職と協働することによる保育士のアイデンティティの理解を深める。          |                             |                                      |          |  |          |
| 【学習目標(到達目標)】  |                             |                                      |          | 【受講して得られる力】                                    |          |
| ①他の専門職の仕事内容を説明できる。<br>②他の専門職と保育士がどのように協働できるのか自分の考えをまとめて発表できる。<br>③専門的技術の一部分を実践することができる。 |                             |                                      |          | 考え抜く力<br>チームで働く力<br>発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術 |          |
| 【履修上の注意】 開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。   |                             |                                      |          |  |          |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                | 授業の内容・目標(使用教材等)                      |          |  | 授業方法     |
| 1   | 小児期のケガ<br>メディカルスポーツ柔道整復学科教員 | 乳児、幼児、児童に多いケガについて理解する。               |          |  | 個人       |
| 2   | 応急処置法<br>メディカルスポーツ柔道整復学科教員  | 応急処置方法を実践し、習得する。                     |          |  | ペア       |
| 3   | 介護福祉士の仕事内容<br>窪木            | 介護福祉士の仕事内容を理解する。                     |          |  | 個人       |
| 4   | 介護基礎技術①<br>窪木               | 体の仕組みを知り、実際に体の使い方を実践し、習得する。          |          |  | グループ     |
| 5   | 介護基礎技術②<br>窪木               | 車椅子の使い方と操作方法を実践し、習得する。               |          |  | グループ     |
| 6   | 介護基礎技術③<br>窪木               | ベッドメイキングと衣類着脱を実践し、習得する。              |          |  | グループ     |
| 7   | 理学療法士の仕事内容<br>安中            | 理学療法士の仕事内容を理解する。                     |          |  | 個人       |
| 8   | ハイリスク新生児の理学療法<br>安中         | ハイリスク新生児に対する理学療法の内容を理解する。            |          |  | グループ     |
| 9   | ハイリスク新生児の理学療法術①<br>安中       | NICUの理学療法士の仕事内容を理解する。                |          |  | グループ     |
| 10  | ハイリスク新生児の理学療法術②<br>安中       | NICUの保育器の中で行うリハビリを実践し、習得する。          |          |  | グループ     |
| 11  | 心理士の仕事内容<br>佐藤              | 心理士の仕事内容を理解する。                       |          |  | 個人       |
| 12  | 会議における語り合いの方法<br>佐藤         | 連携するための会議内での会話術を実践してみる。              |          |  | グループ     |
| 13  | 視能訓練士の仕事内容<br>廣田            | 視能訓練士の仕事内容を理解する。                     |          |  | 個人       |
| 14  | ビジョントレーニング<br>廣田            | 子どもの視力や目のトレーニングを実際に実践してみる。           |          |  | ペア       |
| 15  | 作業療法士の仕事内容<br>田中            | 作業療法士の仕事内容を理解する。                     |          |  | 個人       |
| 期末試験  | 作業療法士と保育士のコラボレーション          | 評価方法                                 | 受講態度     | 50%  | レポート 50% |
| 【教科書】   |                             |                                      |          |  |          |
| 【参考書】   |                             |                                      |          |  |          |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 医療・保健・障害の分野でこれまで学習したことを振り返りながら、復習すること。                              |                             |                                      |          |  |          |
| 【本講義に関する質問先】  |                             | 担当教員                                 | 【質問方法】   |  |          |

| 【科目名】   |                         | 【担当教員】   |          |  | 【科目責任者】                     |
|---|-------------------------|--|----------|--|-----------------------------|
| 発達障害児の理解と対応<br>※実務経験のある教員の授業科目  |                         | 小坂 徹   |          |  | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】                    | 【開講時期】   | 【回数(時間)】 | 【授業形態】                                   | 【単位】                        |
| こども未来学科   | 2                       | 後期   | 15(30)   | 講義                                       | 2                           |
| 【授業の概要・目的】  |                         |  |          |  |                             |
| 発達障害をもつ子や気になる子の行動の意味を考え、実際の保育場面での様々なつまづき行動に対する理解を深めながら、実際の対応の工夫についての実践的な手立てを身に付ける。                |                         |  |          |  |                             |
| 【学習目標(到達目標)】  |                         |  |          | 【受講して得られる力】                              |                             |
| ①発達障害児や気になる子の行動特徴について理解する。<br>②その行動の意味を考えることができる。<br>③その行動の意味にあわせた対応の工夫ができる。<br>④実習体験から行動の意味を考える。 |                         |  |          | 考え抜く力<br>コミュニケーション技術<br>発達援助技術<br>生活援助技術 |                             |
| 【履修上の注意】  |                         | 毎回の予習とリアクションペーパーの提出  |          |  |                             |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)            | 授業の内容・目標(使用教材等)  |          |  | 授業方法                        |
| 1   | オリエンテーション               | 授業概要の説明と進め方、評価の方法について理解する。   |          |  | 個人                          |
| 2   | 登園時の配慮と工夫               | ①園に馴染めない場合 ②荷物の整理が出来ない場合 ③出席のシール貼りが出来ない場合について具体的に理解を深める。                       |          |  | グループ                        |
| 3   | 自由遊び時の配慮と工夫Ⅰ            | ①仲間に入れない場合 ②友だちのおもちゃをとってしまう場合 ③友だちに手が出てしまう場合について具体的に理解を深める。                    |          |  | グループ                        |
| 4   | 自由遊び時の配慮と工夫Ⅱ            | ①友だちの嫌がることを言ってしまう場合 ②同年齢の友だちとの関わりが少ない場合 ③特定の保育者がいないと遊べない場合について具体的に理解を深める。      |          |  | グループ                        |
| 5   | 自由遊び時の配慮と工夫Ⅲ            | ①遊びを次々に変えて行ってしまう場合 ②同じ遊びしか行わず、遊びが発展しない場合 ③危険な場所を好む場合について具体的に理解を深める。            |          |  | グループ                        |
| 6   | 自由遊び時の配慮と工夫Ⅳ            | ①片づけが出来ない場合 ②次の場面への切り替えがスムーズにできない場合について具体的に理解を深める。                             |          |  | グループ                        |
| 7   | 集団活動時の配慮と工夫Ⅰ            | ①保育者の説明が分からず、反応できない場合 ②保育室や園から飛び出してしまう場合 ③絵本や紙芝居の読み聞かせに参加できない場合について具体的に理解を深める。 |          |  | グループ                        |
| 8   | 集団活動時の配慮と工夫Ⅱ            | ①造形活動に参加できない場合 ②運動遊びに参加できない場合 ③集団遊びに参加できない場合について具体的に理解を深める。                    |          |  | グループ                        |
| 9   | 集団活動時の配慮と工夫Ⅲ            | ①水遊びに参加できない場合 ②ごっこ遊びに参加できない場合 ③しゃべってはいけない場面でもよくしゃべる場合について具体的に理解を深める。           |          |  | グループ                        |
| 10  | 排泄時の配慮と工夫               | ①トイレに行くことを嫌がる場合 ②尿意・便意を知らせない場合 ③トイレでの排泄が上手くできない場合について具体的に理解を深める。               |          |  | グループ                        |
| 11  | 散歩での配慮と工夫               | ①安全に行動できない場合 ②みんなと同じペースで歩けない場合について具体的に理解を深める。                                  |          |  | グループ                        |
| 12  | 食事時の配慮と工夫Ⅰ              | ①落ち着いて食べられない場合 ②食べることを嫌がる場合について具体的に理解を深める。                                     |          |  | グループ                        |
| 13  | 食事時の配慮と工夫Ⅱ              | ①配膳されるとすぐに食べてしまう場合 ②咀嚼や呑み込みが上手くいかない場合 ③食器類を上手く使えない場合について具体的に理解を深める。            |          |  | グループ                        |
| 14  | 着脱時・午睡時の配慮と工夫           | ①自分でできない場合 ②嫌がる場合 ③調節が難しい場合 ④準備ができない場合について具体的に理解を深める。                          |          |  | グループ                        |
| 15  | 降園時の配慮と工夫               | ①帰りの準備ができない場合 ②スムーズに帰れない場合について具体的に理解を深める。                                      |          |  | グループ                        |
| 期末試験  |                         | 評価方法   | 授業への貢献   | 60%                                      | レポート                        |
| 【教科書】   | 気になる子も過ごしやすい園生活のヒント(学研) |  |          |  |                             |
| 【参考書】   |                         |  |          |  |                             |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業前の予習とその課題の慈善提出。   |                         |  |          |  |                             |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                    | 【質問方法】   | 教員室にて    |  |                             |

| 【科目名】   |                            | 【担当教員】  |                        |  | 【科目責任者】   |
|---|----------------------------|---|------------------------|--|-----------|
| 居住環境学   |                            | 田中絹代  |                        |  | 一般<br>勝見  |
| 【対象学科】  | 【学年】                       | 【開講時期】  | 【回数(時間)】               | 【授業形態】                                 | 【単位】      |
| こども未来学科   | 2                          | 後期  | 15(30)                 | 講義                                     | 2         |
| 【授業の概要・目的】  |                            |   |                        |  |           |
| 居住環境の概念を理解し、子どもや高齢者、障害者を含めた全ての人々にとって安全で快適に暮らせる居住環境について学びます。                   |                            |   |                        |  |           |
| 【学習目標(到達目標)】  |                            |   |                        | 【受講して得られる力】                            |           |
| ①子ども、高齢者、障害者にとって快適な居住環境とは何かを説明できる<br>②社会的弱者を含めた全ての人々が快適に暮らせる居住環境づくりを考えることができる |                            |   |                        | 前に踏み出す力<br>チームで働く力<br>環境構成技術<br>生活援助技術 |           |
| 【履修上の注意】  |                            | 毎回の授業の予習と課題の事前提出をわすれないようにきをつけること。                             |                        |  |           |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)               | 授業の内容・目標(使用教材等)   |                        |  | 授業方法      |
| 1   | 概論                         | 環境について理解し、自分の理想の居住環境について表現できる                                 |                        |  | 個人        |
| 2   | 子どもの権利条約にみる居住環境            | 「子どもの権利条約」にみる住居環境について理解し、説明できる                                |                        |  | ペア        |
| 3   | 子どもの行動と環境の関係               | 子どもの発達と行動、環境との相互関係について理解し、説明できる                               |                        |  | 個人・グループ   |
| 4   | 子どもを取り巻く居住環境の変化            | 子どもを取り巻く居住環境に変化について理解し、説明できる                                  |                        |  | 個人・グループ   |
| 5   | 子育てと居住環境①                  | 子育てに適した環境を①安全性、②健康性、③快適性、④利便性に分けて理解し、説明できる                    |                        |  | 個人・グループ   |
| 6   | 子育てと居住環境②                  | 子育てに配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる                                   |                        |  | 個人・グループ   |
| 7   | 障害者と高齢者と居住環境①              | 演習を通して障害者・高齢者の居住環境のニーズや生活との関連について関心を持つ                        |                        |  | 個人・グループ   |
| 8   | 障害者と高齢者と居住環境②              | 障害者・高齢者に配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる                               |                        |  | グループ      |
| 9   | 子ども、障がい者、高齢者のための住環境①       | 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について理解し、実際の住宅の改築案を考えることができる               |                        |  | グループ      |
| 10  | 子ども、障がい者、高齢者のための住環境②       | 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について理解し、実際の住宅の改築案を考えることができる               |                        |  | グループ      |
| 11  | 地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり① | 人間にとっての住宅環境・地域環境の持つ意味について理解し、グループ活動を通して「すべての人々のための街づくり」に関心を持つ |                        |  | グループ      |
| 12  | 地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり② | 人間にとっての住宅環境・地域環境の持つ意味について理解し、「すべての人々のための街づくり」を提案できる           |                        |  | グループ      |
| 13  | 地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり③ | 「全ての人々のための街づくり」について、子どもが学ぶ活動を実施することができる                       |                        |  | グループ      |
| 14  | 地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり④ | 「全ての人々のための街づくり」について、子どもが学ぶ活動を振り返ることができる                       |                        |  | 個人・グループ   |
| 15  | まとめ                        | 「社会的弱者の視点にたったまちづくり」経過のまとめと発表を通して、理解を深め、説明すること                 |                        |  | 個人・グループ   |
| 期末試験  | 原則無し                       | 評価方法  | 課題の達成度 40%<br>受講態度 30% | レポート                                   | 30%<br>0% |
| 【教科書】   | 適時紹介します                    |   |                        |  |           |
| 【参考書】   | 適時紹介します                    |   |                        |  |           |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ活動の準備  |                            |   |                        |  |           |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                       | 【質問方法】  | 教員室にて                  |  |           |

| 【科目名】   |                                | 【担当教員】   |                              |   | 【科目責任者】   |
|---|--------------------------------|--|------------------------------|---|-----------|
| 感覚統合入門  |                                | 田中絹代   |                              |   | 一般<br>勝見  |
| 【対象学科】  | 【学年】                           | 【開講時期】   | 【回数(時間)】                     | 【授業形態】                                  | 【単位】      |
| こども未来学科   | 2                              | 前期   | 15(30)                       | 演習                                      | 1         |
| 【授業の概要・目的】  |                                |  |                              |   |           |
| 障害のある子どもの療育の一つである感覚統合理論をもとに、子どもの行動特性を理解し、子どもの発達に応じた感覚運動遊びについて学びます。        |                                |  |                              |   |           |
| 【学習目標(到達目標)】  |                                |  |                              | 【受講して得られる力】                             |           |
| ①感覚統合理論に基づいて子どもの発達を促す遊びを立案できる<br>②障害をもった子どもに配慮し、感覚統合理論に基づいたプログラムを安全に実施できる |                                |  |                              | チームで働く力<br>発達援助技術<br>遊びの展開技術<br>前に踏み出す力 |           |
| 【履修上の注意】 実際の遊具を使った演習を通して理解を深めます。動きやすい服装で参加してください。                         |                                |  |                              |   |           |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)                   | 授業の内容・目標(使用教材等)                                |                              |   | 授業方法      |
| 1   | 感覚統合理論①                        | 障害をもつ子どもを対象とした療育の中で「感覚統合」についての位置づけや理論的背景を説明できる |                              |   | ペア        |
| 2   | 感覚統合理論②                        | 感覚の機能と発達の意義について説明できる                           |                              |   | ペア        |
| 3   | 感覚統合機能の評価①                     | 感覚統合機能の評価が実施できる                                |                              |   | 個人・グループ   |
| 4   | 感覚統合機能の評価②                     | 感覚統合機能の評価結果を生活上の行動として理解できる                     |                              |   | 個人・グループ   |
| 5   | 触覚系の感覚遊び①                      | 演習を通して触覚系の遊びに関心を持つ                             |                              |   | グループ      |
| 6   | 触覚系の感覚遊び②                      | グループで触覚系の遊びを振りかえりその発達の意義について説明できる              |                              |   | グループ      |
| 7   | 固有受容系・前庭系の感覚遊び①                | 演習を通して固有受容系・前庭系の遊びに関心を持つ                       |                              |   | グループ      |
| 8   | 固有受容系・前庭系の感覚遊び②                | グループで固有受容系・前庭系の遊びを振りかえりその発達の意義について説明できる        |                              |   | グループ      |
| 9   | 感覚運動遊びの展開                      | 「正常発達」の原則に基づいて感覚運動遊びの段階付けができる                  |                              |   | 個人        |
| 10  | グループ活動の立案と実施①                  | 感覚統合理論をもとにしてグループ活動を立案できる                       |                              |   | グループ      |
| 11  | グループ活動の立案と実施②                  | 感覚統合理論をもとにしてグループ活動の準備ができる                      |                              |   | グループ      |
| 12  | グループ活動の立案と実施③                  | 感覚統合理論をもとにしたグループ活動を安全に実施し、記録できる                |                              |   | グループ      |
| 13  | グループ活動の振り返り                    | 感覚統合理論をもとにしたグループ活動を振りかえり、発達の意義について理解することができる   |                              |   | グループ      |
| 14  | グループ活動の発表                      | グループ活動のまとめを発表することで「感覚統合理論」の理解を深める              |                              |   | グループ      |
| 15  | まとめ                            | 子どもの行動を感覚統合理論の視点だけでなく、他の発達学的視点から統合的に理解できる      |                              |   | 個別        |
| 期末試験  | 原則無し                           | 評価方法   | 課題の達成度<br>40%<br>受講態度<br>30% | レポート                                    | 30%<br>0% |
| 【教科書】   | 乳幼児期の感覚統合遊び—保育士と作業療法士のコラボレーション |  |                              |   |           |
| 【参考書】   |                                |  |                              |   |           |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ活動の準備  |                                |  |                              |   |           |
| 【本講義に関する質問先】  | 担当教員                           | 【質問方法】   | 教員室にて                        |   |           |



| 【科目名】   |                        | 【担当教員】 |   |   | 【科目責任者】                      |
|---|------------------------|--------|---|---|------------------------------|
| 在宅保育<br>※実務経験のある教員の授業科目   |                        | 鈴木佳代子  |   |   | 幼稚園(教諭)<br>保育所(保育士)<br>42年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】                   | 【開講時期】 | 【回数(時間)】  | 【授業形態】  | 【単位】                         |
| こども未来学科   | 2                      | 後期     | 15(30)  | 講義  | 2                            |
| 【授業の概要・目的】  |                        |        |   |   |                              |
| 様々な社会的ニーズによって発生してきたベビーシッターの役割を理解する。在宅での保育に必要な技術や安全管理方法を学び、ベビーとして必要とされる専門的な技術を身に付ける。 |                        |        |   |   |                              |
| 【学習目標(到達目標)】  |                        |        |   | 【受講して得られる力】   |                              |
| ① 在宅保育の意義や役割を理解する。<br>② ベビーシッターとして必要な知識、技術を習得する。                                    |                        |        |   | 発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術<br>コミュニケーション技術<br>相談支援技術 |                              |
| 【履修上の注意】 全講義を履修後、試験を実施し、保育士資格取得と同時に認定ベビーシッター資格を取得することができます。                         |                        |        |   |   |                              |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)           |        | 授業の内容・目標(使用教材等)   |   | 授業方法                         |
| 1   | オリエンテーション              | 鈴木     | 履修上の注意点、授業の内容や進め方について理解する。                              |   | 個人                           |
| 2   | 在宅保育とは                 | 鈴木     | 子ども子育て支援法における保育サービス制度の理解と、その中の一つである在宅保育の社会的役割について理解する。  |   | 個人                           |
| 3   | ベビーシッターの実際①            | 渡邊     | ベビーシッターの仕事の流れとその内容を理解する。                                |   | 個人                           |
| 4   | ベビーシッターの実際②            | 渡邊     | ベビーシッターとしてのマナーや基本姿勢を学ぶ。                                 |   | 個人                           |
| 5   | ベビーシッター概論①             | 鈴木     | 在宅保育の現状保育形態の変容と課題について学ぶ。                                |   | 個人                           |
| 6   | ベビーシッター概論②             | 鈴木     | 産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育サービスにおける実態と留意点を理解する。                 |   | 個人                           |
| 7   | ベビーシッター概論③             | 鈴木     | グループ保育、学童保育、夜間・宿泊を伴う保育サービスにおける実態と留意点を理解する。              |   | 個人                           |
| 8   | 保育マインドと子育て支援           | 鈴木     | 在宅保育における保育の考え方、保育マインドを理解する。家族のニーズへの理解とカウンセリングマインドを理解する。 |   | 個人                           |
| 9   | 在宅保育のリスクマネジメント         | 鈴木     | 在宅保育における事故の発生箇所とその予防策について理解する。                          |   | 個人                           |
| 10  | 子どもの保健                 | 渡邊     | 在宅保育における健康管理に必要な知識と技術を学ぶ。                               |   | 個人                           |
| 11  | 子どもの発達                 | 渡邊     | 新生児期から学童期の子どもの発達過程と障害について理解する。                          |   | 個人                           |
| 12  | 子どもの栄養                 | 渡邊     | 新生児期から学童期の子どもの栄養と食事の方法、食育について学ぶ。                        |   | 個人                           |
| 13  | ベビーシッターの保育技術①          | 渡邊     | 子どもの発達段階や生活環境に応じた関わり方を学ぶ。                               |   | 個人                           |
| 14  | ベビーシッターの保育技術②          | 渡邊     | 子どもの発達段階や生活環境に応じた日常生活援助を学ぶ。                             |   | 個人                           |
| 15  | 模擬保育                   | 渡邊     | 実際に、シッター役になり、これまで学習したことを活かしてベビーシッターを行ってみる。              |   | グループ                         |
| 期末試験  | 筆記試験                   |        | 評価方法  | 実技試験 50%  | 筆記試験 50%                     |
| 【教科書】   | 家庭訪問保育の理論と実際 第2版(中央法規) |        |   |   |                              |
| 【参考書】   |                        |        |   |   |                              |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】   |                        |        | 既習してきた内容を用いながら、復習を行ってください。                              |   |                              |
| 【本講義に関しての質問先】   |                        | 担当教員   | 【質問方法】  | 教員室にて   |                              |

| 【科目名】  |   | 【担当教員】   |            |   | 【科目責任者】 |
|--|---|--|------------|---|---------|
| 入門臨床美術   |   | 大城 泰造  |            |   | 一般 勝見   |
| 【対象学科】   | 【学年】  | 【開講時期】   | 【回数(時間)】   | 【授業形態】  | 【単位】    |
| こども未来学科  | 2   | 後期   | 15(30)     | 演習  | 1       |
| 【授業の概要・目的】   |   |  |            |   |         |
| 臨床美術を基に、製作した美術作品を通して、一人ひとりの参加者にそった働きかけをすることを学び、その人の意欲と潜在能力を引き出す知識と技法を修得することを目的とする。   |   |  |            |   |         |
| 【学習目標(到達目標)】   |   |  |            | 【受講して得られる力】   |         |
| ①病院や施設、保育園で実践されている臨床美術の基本的な知識と技術を表現できる。<br>②実際に美術制作を行うことにより、創造性をもってアートを理解することができる。<br>③ロールプレイングによってコミュニケーションスキルを様々な形で活かすことができるようになる。<br>④プレゼンテーションスキルを獲得し、様々な場面で活かすことができるようになる。<br>⑤保育の向上を目指した実践の省察と再計画化を行いPDCAを構築できる。 |   |  |            | 美術活動の展開技術<br>創造的思考力<br>コミュニケーション能力<br>プレゼンテーション能力<br>問題解決能力 |         |
| 【履修上の注意】   |   |  |            |   |         |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)  | 授業の内容・目標(使用教材等)  |            |   | 授業方法    |
| 1  | ガイダンス 講義の進め方についての説明   | 「臨床美術論ガイダンス」講義計画全体やこの講義の位置付け、臨床美術士の資格について理解する。             |            |   | 個人      |
| 2  | 臨床美術の基幹① 臨床美術/チーム作り   | 授業プラン、評価について説明を受け理解し、チーム作りを通して学びの体制を整える。                   |            |   | グループ    |
| 3  | 臨床美術の基幹② 臨床美術/基幹  | 臨床美術の歴史、理念について学び、基本的な画材の使用方法についても学び理解する。                   |            |   | 個人      |
| 4  | 臨床美術入門① アナログ画   | 概念的な絵にならず自由に絵を描くとはどういうことかを実際に制作を通して学び理解する。                 |            |   | グループ    |
| 5  | 臨床美術入門② ジェスチャー画   | 動きを素早く捉える方法、モチーフの捉え方についてクロッキーを通して学び習得する。                   |            |   | グループ    |
| 6  | 臨床美術入門③ 量感画   | ものを実感するとはどういうことかについて、林檎をモチーフに制作を通して学び習得する。                 |            |   | 個人      |
| 7  | 臨床美術入門④ 立体造形カボチャ1   | 2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学び習得する。                   |            |   | 個人      |
| 8  | 臨床美術入門⑤ 立体造形カボチャ2   | 2Dから3Dの制作を通して立体作品の完成と作品のプレゼンテーションの方法を学び実践できるようになる          |            |   | グループ    |
| 9  | 臨床美術入門⑥ 修正輪郭画   | 純粋輪郭画法、修正輪郭画法を実践を通して学び習得する。                                |            |   | 個人      |
| 10   | 存在論的人間観   | 臨床美術の理念となる人間へのまなざしを存在論的人間観を通して学び理解する。                      |            |   | 個人      |
| 11   | コミュニケーションスキル① アートコミュニケーション(非言語)                                       | アートを通じたコミュニケーションの可能性について学び、制作と相互学習を通して理解する。                |            |   | ペア・グループ |
| 12   | コミュニケーションスキル② アートコミュニケーション(言語)  | 鑑賞会の実践を通して自己肯定感、自己効力感を高めるコミュニケーションスキルについて学び、習得する。          |            |   | グループ    |
| 13   | 臨床美術実践の基礎① 実践の基礎(3D)  | 粘土を用いたアートプログラムについて学び、習得する。                                 |            |   | 個人      |
| 14   | 臨床美術実践の基礎② 実践の基礎(共同制作)  | これまで学んだアート技法、コミュニケーションスキルを活かし、共同制作を通して実践できるようになる。          |            |   | グループ    |
| 15   | 総括(学びのシェア)  | 学びのシェア これまでの総括を行い、意見交換や相互学習を通して学びのシェアを行う。                  |            |   | グループ    |
| 期末試験   |   | 評価方法   | 課題の達成度 70% | 受講態度 30%  |         |
| 【教科書】  | 講義内で必要なコピーを配布します。   |  |            |   |         |
| 【参考書】  | 講義内で必要なコピーを配布します。<br>臨床美術士養成講座5級取得コーステキスト(芸術造形研究所)、臨床美術のすすめ(日本臨床美術協会) |  |            |   |         |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  |   | ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習をすること。 |            |   |         |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員  | 【質問方法】   | メール連絡      |   |         |

| 【科目名】  |   | 【担当教員】          |                                       |  | 【科目責任者】                               |
|--|---|-----------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 保育実習指導Ⅱ<br>※実務経験のある教員の授業科目   |   | 田母神 知加子1)・勝見 恵子 |                                       |  | 1)幼稚園(教諭)<br>保育所(保育士)<br>11年勤務<br>田母神 |
| 【対象学科】   | 【学年】  | 【開講時期】          | 【回数(時間)】                              | 【授業形態】   | 【単位】                                  |
| こども未来学科  | 2   | 前期              | 15(30)                                | 演習   | 1                                     |
| 【授業の概要・目的】   |   |                 |                                       |  |                                       |
| 保育実習による総合的な学びとなるよう今までの学びと保育実習Ⅰでの学びと保育実習Ⅱでの学びを関連させながら、保育実践力を習得する。また保育現場の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、附属保育所における実践力などを通して学び、保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習後は実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 |   |                 |                                       |  |                                       |
| 【学習目標(到達目標)】   |   |                 |                                       | 【受講して得られる力】                                      |                                       |
| ①保育実習の意義と目的を理解する。<br>②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえながら、保育実践力を培う。<br>③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解を深める。<br>④保育士の専門性と職業倫理について理解する。   |   |                 |                                       | チームで働く力<br>環境構成技術<br>遊びの展開技術<br>発達援助技術<br>生活援助技術 |                                       |
| 【履修上の注意】   |   |                 |                                       |  |                                       |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)                                      |                 | 授業の内容・目標(使用教材等)                       |  | 授業方法                                  |
| 1  | 保育実習Ⅱの意義と方法                                       |                 | 保育実習Ⅰを踏まえた実習の目的と内容を理解する。              |  | 個人                                    |
| 2  | 保育実習Ⅱの日記の書き方①                                     |                 | 実習Ⅰの日記をもとに、子どもの生活を見直し、保育士の援助・留意を理解する。 |  | グループ                                  |
| 3  | 保育実習Ⅱの日記の書き方②                                     |                 | 実習Ⅰの日記をもとに、子どもの遊びを見直し、保育士の援助・留意を理解する。 |  | グループ                                  |
| 4  | 保育実習Ⅱの日記の書き方③                                     |                 | 実習Ⅰの日記をもとに考察の書き方を習得する。                |  | 個人                                    |
| 5  | 保育実習Ⅱの日記の書き方④                                     |                 | 事例を通して考察の書き方を身につける。                   |  | 個人                                    |
| 6  | 保育教材製作①   |                 | 保育教材を調べ、製作する。                         |  | 個人                                    |
| 7  | 保育教材製作②   |                 | 製作した保育教材を通して実践力を身につける。                |  | グループ                                  |
| 8  | 指導計画案の書き方   |                 | 総合保育の指導計画案の書き方を習得する。                  |  | 個人                                    |
| 9  | 保育実践力の育成(模擬保育)①                                   |                 | 年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。                |  | グループ                                  |
| 10   | 保育実践力の育成(模擬保育)②                                   |                 | 年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。                |  | グループ                                  |
| 11   | 保育実践力の育成(模擬保育)③                                   |                 | 年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。                |  | グループ                                  |
| 12   | 附属保育所実習①  |                 | 学園附属保育所における観察・参加実習を通して実践力を身につける。      |  | 個人                                    |
| 13   | 附属保育所実習②  |                 | 学園附属保育所における総合実習を通して実践力を身につける。         |  | 個人                                    |
| 14   | 実習事前指導  |                 | 日記などの書類整理・実習に向けての最終確認をする。             |  | 個人                                    |
| 15   | 実習事後指導  |                 | 自己の課題を明確化する。                          |  | 個人                                    |
| 期末試験   | 実技試験  |                 | 評価方法                                  | 受講態度 40%<br>課題の達成度 30%                           | 実技試験 30%                              |
| 【教科書】  | 保育実践辞典(鈴木出版)<br>フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日記・指導計画(萌文書林) |                 |                                       |  |                                       |
| 【参考書】  | 保育所保育指針解説(厚生労働省)                                  |                 |                                       |  |                                       |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  |   |                 |                                       |  |                                       |
| 【本講義に関する質問先】   |   | 担当教員            | 【質問方法】                                | 教員室にて  |                                       |

| 【科目名】  |  | 【担当教員】          |                 |  | 【科目責任者】                               |
|--|--|-----------------|-----------------|--|---------------------------------------|
| 保育実習Ⅱ<br>※実務経験のある教員の授業科目   |  | 田母神 知加子1)・勝見 恵子 |                 |  | 1)幼稚園(教諭)<br>保育所(保育士)<br>11年勤務<br>田母神 |
| 【対象学科】   | 【学年】   | 【開講時期】          | 【回数(時間)】        | 【授業形態】   | 【単位】                                  |
| こども未来学科  | 2  | 後期              | 10(80)          | 実習   | 2                                     |
| 【授業の概要・目的】   |  |                 |                 |  |                                       |
| 今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの保育や保護者支援についても総合的に学ぶ。また、実際に、計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。   |  |                 |                 |  |                                       |
| 【学習目標(到達目標)】   |  |                 |                 | 【受講して得られる力】  |                                       |
| ①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。<br>②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。<br>③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。<br>④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。<br>⑤保育士の業務内容職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。<br>⑥保育士としての自己の課題を明確化する。 |  |                 |                 | 発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術<br>遊びの展開技術<br><br>コミュニケーション技術 |                                       |
| 【履修上の注意】   |  |                 |                 |  |                                       |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)   |                 | 授業の内容・目標(使用教材等) |  | 授業方法                                  |
| 1  | 1. 保育所の役割や機能の具体的展開<br>(1)養護と教育が一体となって行われる保育<br>(2)保育所の社会的役割と責任   |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 2  | 2. 観察に基づく保育理解<br>(1)子どもの心身の状態や活動の記録<br>(2)保育士等の動きや実際の観察  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 3  | 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携<br>(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解<br>(2)入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援<br>(3)地域社会との連携 |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 4  | 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価<br>(1)保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解<br>(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価                                 |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 5  | 5. 保育士の業務と職業倫理<br>(1)多様な保育の展開と保育士の業務<br>(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理   |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 6  | 6. 自己の課題の明確化   |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 7  |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 8  |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 9  |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 10   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 11   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 12   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 13   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 14   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 15   |  |                 |                 |  | 個人・グループ                               |
| 期末試験   |  |                 | 評価方法            | 課題の達成度 40%<br>実習評価 60%                                   |                                       |
| 【教科書】  |  |                 |                 |  |                                       |
| 【参考書】 実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)、保育所保育指針、保育所保育指針解説(厚生労働省)  |  |                 |                 |  |                                       |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】   |  |                 |                 |  |                                       |
| 【本講義に関する質問先】   |  |                 | 【質問方法】          |  |                                       |

| 【科目名】  |  | 【担当教員】   |                              |   | 【科目責任者】                           |
|--|--|--|------------------------------|---|-----------------------------------|
| 保育実習指導Ⅲ<br>※実務経験のある教員の授業科目   |  | 小坂 徹   |                              |   | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務<br>小坂 |
| 【対象学科】   | 【学年】   | 【開講時期】   | 【回数(時間)】                     | 【授業形態】  | 【単位】                              |
| こども未来学科  | 2  | 前期   | 15(30)                       | 演習  | 1                                 |
| 【授業の概要・目的】   |  |  |                              |   |                                   |
| 保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。   |  |  |                              |   |                                   |
| 【学習目標(到達目標)】   |  |  |                              | 【受講して得られる力】   |                                   |
| ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。<br>②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。<br>③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。<br>④実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 |  |  |                              | 発達援助技術<br>生活援助技術<br>環境構成技術<br>コミュニケーション技術<br>相談支援技術 |                                   |
| 【履修上の注意】 開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。  |  |  |                              |   |                                   |
| 回数   | 授業のテーマ(担当教員)   | 授業の内容・目標(使用教材等)                                    |                              |   | 授業方法                              |
| 1  | オリエンテーション  | 保育実習Ⅰを踏まえた実習の目的と内容を理解する。                           |                              |   | 個人                                |
| 2  | 施設の理解  | 実習施設の役割と機能を理解する。                                   |                              |   | 個人                                |
| 3  | 保育実践力の育成   | 児童の状況に応じた生活支援を理解する。                                |                              |   | グループ                              |
| 4  | 保育実践力の育成   | 児童の状況に応じた生活支援を理解する。                                |                              |   | グループ                              |
| 5  | 保育実践力の育成   | 児童の状況に応じた生活支援を理解する。                                |                              |   | グループ                              |
| 6  | 自立支援計画の立案  | 幼児の発達過程を踏まえ、幼児なりの基本的生活習慣の自立を考える。                   |                              |   | グループ                              |
| 7  | 自立支援計画の立案  | 自分自身の生活を振り返りながら、小学児童の基本的生活習慣の自立を考える。               |                              |   | グループ                              |
| 8  | 自立支援計画の立案  | 自分自身の生活を振り返りながら、中学・高校児童の基本的生活習慣の自立を考え、自立支援計画を立案する。 |                              |   | グループ                              |
| 9  | 学外ボランティア活動(学童期)①   | ボランティア活動と記録を通して、子ども理解を深める。                         |                              |   | グループ                              |
| 10   | 学外ボランティア活動(学童期)②   | ボランティア活動と記録を通して、子ども理解を深める。                         |                              |   | グループ                              |
| 11   | 学外ボランティア活動(児童福祉施設)①  | ボランティアの活動と記録を通して、施設保育士の役割を考える。                     |                              |   | グループ                              |
| 12   | 学外ボランティア活動(児童福祉施設)②  | ボランティアの活動と記録を通して、施設保育士の役割を考える。                     |                              |   | グループ                              |
| 13   | ボランティア活動のまとめ   | 活動の取り組み内容や記録を振り返り、実習までの改善点を理解する。                   |                              |   | 個人                                |
| 14   | 実習直前学習   | 実習に向けての最終確認を行う。                                    |                              |   | 個人                                |
| 15   | 実習事後学習   | 自己評価と実習先評価、疑問点について個別的に助言を受ける。今後に向けた課題を明確化する。       |                              |   | 個人                                |
| 期末試験   | レポート   | 評価方法   | 受講態度<br>40%<br>課題の達成度<br>30% | レポート  | 30%                               |
| 【教科書】  | 実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会)<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)        |  |                              |   |                                   |
| 【参考書】  |  |  |                              |   |                                   |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】  | 本、ニュース、ボランティアなどを活用し、学童期以降の子どもたちの発達理解を深めましょう。生活を支援する者になるために、日頃の生活から自己管理や生活力向上に努めましょう。 |  |                              |   |                                   |
| 【本講義に関する質問先】   | 担当教員   | 【質問方法】   |                              |   |                                   |

| 【科目名】   |   | 【担当教員】          |                |  | 【科目責任者】                     |
|---|---|-----------------|----------------|--|-----------------------------|
| 保育実習Ⅲ<br>※ 実務経験のある教員の授業科目   |   | 小坂 徹            |                |  | 知的障害児施設<br>(児童指導員)<br>11年勤務 |
| 【対象学科】  | 【学年】  | 【開講時期】          | 【回数(時間)】       | 【授業形態】   | 【単位】                        |
| こども未来学科   | 2   | 後期              | 10(80)         | 実習   | 2                           |
| 【授業の概要・目的】  |   |                 |                |  |                             |
| 保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解するとともに、保護者支援や家庭支援のための知識、技術、判断力を、実践を通して総合的に学ぶ。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と結びつけながら理解することを目的とする。  |   |                 |                |  |                             |
| 【学習目標(到達目標)】  |   |                 |                | 【受講して得られる力】                                      |                             |
| ①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。<br>②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。<br>③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。<br>④保育士としての自己の課題を明確化する。 |   |                 |                | 前に踏み出す力<br>考え抜く力<br>チームで働く力<br>遊びの展開技術<br>生活援助技術 |                             |
| 【履修上の注意】  |   |                 |                |  |                             |
| 回数  | 授業のテーマ(担当教員)  | 授業の内容・目標(使用教材等) |                |  | 授業方法                        |
| 1   | 1. 児童福祉施設(保育所以外)の役割と機能<br>2. 施設における支援の実際<br>(1)受容し、共感する態度<br>(2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解<br>(3)個別支援計画の作成と実践<br>(4)子どもの家族への支援と対応<br>(5)多様な専門職との連携<br>(6)地域社会との連携<br>3. 保育士の多様な業務と職業倫理<br>4. 保育士としての自己課題の明確化 |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 2   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 3   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 4   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 5   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 6   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 7   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 8   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 9   |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 10  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 11  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 12  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 13  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 14  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 15  |   |                 |                |  | 個人・グループ                     |
| 期末試験  |   | 評価方法            | 課題の達成度<br>実習評価 | 40%<br>60%                                       |                             |
| 【教科書】   |   |                 |                |  |                             |
| 【参考書】 実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)、保育所保育指針、保育所保育指針解説(厚生労働省)   |   |                 |                |  |                             |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】   |   |                 |                |  |                             |
| 【本講義に関する質問先】  |   | 【質問方法】          |                |  |                             |